

## 第3節 幹を育てる (探究的な学び・類型毎の趣旨に関する事業)

### 2-3-1 総合的な探究の時間の意義

- ①学習プログラム年間計画
- ②各コースの実施概要

### 2-3-2 外国語教育の先進的な取り組み

- ①English Day
- ②GIAHSオンライン研修
- ③グローバル探究研修
- ④外国人留学生の受入れ体制の整備

第1節 風を読む (資質・能力の育成に関する事業)

第2節 葉を拓げる (コンソーシアム構築に関する事業)

第3節 幹を育てる (探究的な学び・類型毎の趣旨に関する事業)

第4節 土を耕す (教員の資質向上や関係機関の意識改革に関する事業)

第5節 森を見る (評価に関する事業)



## 2-3-1 総合的な探究の時間の意義

### (1) 事業のねらい

本校は、課題研究活動を軸とする「フォレストピア学習（総合的な学習の時間）」を開校時に（平成6年）に設置し、20年間実践してきた実績がある。そして平成26年度よりスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定されたことを受けて、ローカル（中山間地域）からグローバル（国際社会）で活躍できる生徒の育成を目標とすることで、生徒の社会課題解決に対する当事者意識を高めることができた。今後はグローバルな視野のもとで、地域の課題解決へ向けた学びに深化させる必要があると考え、「ローカルな問いを深め、普遍的な問いを探究する」ための総合的な探究の時間を実施する。グローバルフォレストピア探究においては、身につけさせたい5つの力（関連づける力、問う力、見る力、試みる力、繋がる力）の獲得を目指す。

### (2) 事業の概要

グローバルフォレストピア探究では、次の3つの学習プログラムを設定する。

#### ① マイプロジェクト

3学年において、GIAHS地域をテーマにした実践型プロジェクト（マイプロジェクト）に取り組むことによって、2学年までに取り組んだ地域体験活動と紐付け、自己と社会の繋がりを実感させる。

#### ② G-TOKの実施

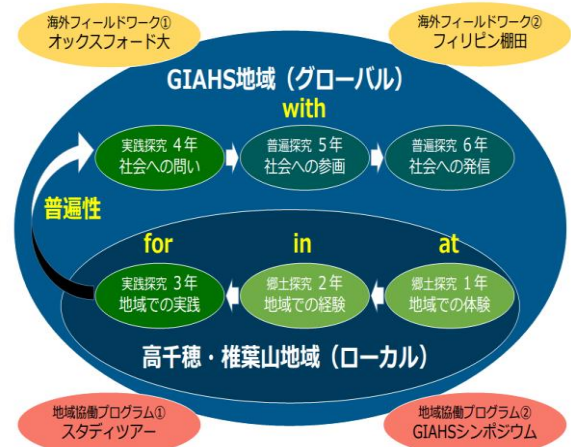
4学年において、対話から生まれる問いの構造化を目的とした哲学的思考ワーク（G-TOK）に取り組むことによって、目の前に散在する社会課題の本質（ボトルネック）を見いだすための哲学的思考法を身につけさせる。

#### ③ 課題研究活動

グローバルな社会課題の中から研究テーマを設定し、国内外の大学や企業及び団体と連携を図りながら、その解決を目指した研究及び実践を行う。

全国初の公立中等教育学校である本校の特色（6カ年教育・少人数教育）と、国際社会で議論されている課題が山積している中山間地域にある強みを活かして、6カ年の学習プログラムを編成し、体系的に実施する。

### 総合探究（概要）



また、課題研究活動に関わる連携先は次の通りである。

- ・NPO 法人グローカルアカデミー
- ・NPO 法人アジア砒素ネットワーク
- ・GIAHS 協議会
- ・五ヶ瀬自然学校
- ・五ヶ瀬自然エネルギー研究所
- ・五ヶ瀬町役場

他

### (3) 事業の成果と課題

今年度の成果は、昨年度の課題であった「各学年の価値共有」ができたことである。昨年度再編成したプログラムの価値を職員研修で共有し、1年間を通して実践することができた。その結果、プログラムを学年内だけで実施するのではなく、6年生や5年生が4年生や3年生のプログラムにメンターとして活動することで、職員だけでなく生徒同士がグローバルフォレストピア探究の学習プログラムの価値を共有することができた。その根拠として、継続研究をする生徒が昨年度より増加している。

さらに探究活動から得た「学びの普遍性の向上」も成果として挙げられる。グローバルフォレストピア探究で得た学びを活用し、「MY PROJECT AWARD 2020」などの各種探究コンテストでの受賞だけでなく、教科に関わるコンテスト（自治医科大学小論文コンテスト入賞や日本地理学会での採択など）においても評価を得ることができた。

今後の課題としては、「成果の体系化」である。今年度の成果をプログラムに反映させていくことで「自走するカリキュラムの作成」を目標とする。

令和2年度グローバルフォレストピア探究 年間カリキュラム表

コンソシアム,共学共創チーム,グローバルサポ-ターとの連携

地域サポ-ターとの連携

| 目標                            |                                | 野性味あふれるグローバルシチズン (Global citizen) の育成<br>(1)関連付ける力 Associating (2)問う力 Questioning (3)見る力 Observing (4)試みる力 Experimenting (5)繋がる力 Networking   |                                |   |                               |                                |  |   |   |  |                        |  |  |                 |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
|-------------------------------|--------------------------------|---|--------------------------------|---|-------------------------------|--------------------------------|--|---|---|--|------------------------|--|--|-----------------|---|-----------|-------------------|--------------------|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 実施予定日                         |                                | 4月  |                                | 5月  |                               | 6月                             |  | 7月  |   | 9月   |                        | 10月  |  | 11月             |   | 12月       |                   | 1月                 |                   | 2月                 |                    | 3月                 |                    |                    |                    |
| 単位時間数                         |                                | 6時間   |                                | 3時間   |                               | 3時間                            |  | 3時間   |   | 3時間  |                        | 3時間  |  | 3時間             |   | 7時間       |                   | 3時間                |                   | 3時間                |                    | 3時間                |                    |                    |                    |
| 1年                            | テーマ                            | 地域の自然と文化に触れることで感性を磨き、新たな発見から疑問を積み立てる (発見・立問)【? (はてな) 貯金】  |                                |   |                               |                                |  |   |   |  |                        |  |  |                 |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
|                               | 内容                             | オリエンテーション<br>GIAHS概論<br>わらじ作り   | 田植え体験                          | 地域の用水路<br>を辿る   | 茶摘み体験                         | 神話の里<br>寺社巡り                   | カヌー体験  | 伝統芸能<br>荒踊り   | 稲刈り体験   | 脱穀体験   | 竹細工制作                  | 古い石橋巡り   | 餅つき体験<br>(終日)  | 探究活動 (体験活動のまとめ) |   |           |                   |                    |                   |                    |                    | 発表会<br>準備          | 研究<br>発表会<br>[全員]  | 研究<br>発表会<br>[代表者] |                    |
|                               | 連携機関<br>指導協力者<br>指導者等<br>(敬称略) | 地域サポ-ター<br>本校卒業生<br>本校職員  | 甲斐勝博<br>(五ヶ瀬町)                 | 甲斐和恵<br>(五ヶ瀬町)  | 新緑会<br>(五ヶ瀬町)                 | 高千穂神社宮司<br>天岩戸神社宮司<br>(高千穂町)   | 五ヶ瀬自然学校<br>(NPO)   | 長田豊明<br>(荒瀬りの館)   | 甲斐勝博<br>(五ヶ瀬町)  | 甲斐勝博<br>(五ヶ瀬町)   | そよ風ハク<br>長谷野敏博<br>(法人) | 東陽石匠館<br>(博物館)   | 甲斐勝博<br>(五ヶ瀬町)   | 野菜納入組合<br>(組合)  | 個人の探究するテーマによって、協力者や連携機関を選択し、依頼する。<br>コンソシアム(GIAHS協議会,宮崎県教育庁,5町村自治体,5町村中学校,宮崎大学,高千穂高校,地域NPO),共学共創チーム,<br>グローバルサポ-ター (国連食料農業機関),GIAHS地域住民,研究協力者,その他自治体や企業,本校職員<br>等 |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    | 発表会<br>準備          | 研究<br>発表会<br>[全員]  | 研究<br>発表会<br>[代表者] |
| 教科等横断的な<br>学習が考えられる<br>教科/科目例 | 社会,技術家庭<br>道徳                  | 数学,社会,<br>技術家庭,道徳   | 国語,数学,理科<br>社会,技術家庭,<br>道徳     | 数学,理科,<br>社会,技術家庭,<br>道徳  | 国語,社会,英語<br>道徳                | 保健体育,理科<br>道徳                  | 国語,社会,英語<br>音楽,美術,<br>保健体育,道徳  | 理科,社会,道徳  | 理科,社会,道徳  | 技術家庭,道徳  | 技術家庭,道徳                | 社会,英語,道徳   | 技術家庭,<br>保健体育,道徳   | 全教科             |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
| 2年                            | テーマ                            | 生命を支える農業を学び、新たな発見から問いを立て、その検証を行う。(立問・運用)  |                                |   |                               |                                |  |   |   |  |                        |  |  |                 |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
|                               | 内容                             | オリエンテーション<br>GIAHS概論<br>わらじ作り   | 農業経験計画<br>きゅうり,トマトなど<br>すじやがいも | 農業経験①<br>きゅうり,トマトなど<br>すじやがいも   | 農業経験②<br>きゅうり,トマトなど<br>すじやがいも | 命のつながり<br>一端を解き食す<br>ことを通して~   | 農業経験③<br>きゅうり,トマトなど<br>すじやがいも  | 農業経験④<br>きゅうり,トマトなど<br>すじやがいも   | 収穫経験<br>きゅうり,トマトなど<br>すじやがいも  | 調理経験<br>農業体験で収穫した<br>作物を利用して,<br>調理を行う                   | ヤマメの<br>採卵作業<br>体験     | 生命と産業<br>~上島久地区<br>現地研修~   | 探究活動 (自由研究)<br>~テーマを設定しよう~   |                 |   |           |                   |                    |                   |                    | 発表会<br>準備          | 研究<br>発表会<br>[全員]  | 研究<br>発表会<br>[代表者] |                    |                    |
|                               | 連携機関<br>指導協力者<br>指導者等<br>(敬称略) | 地域サポ-ター<br>本校卒業生<br>本校職員  | 太田聖悟<br>(五ヶ瀬町)                 | 太田聖悟<br>(五ヶ瀬町)  | 太田聖悟<br>(五ヶ瀬町)                | 美日化学研究所<br>吉川 透<br>(法人)        | 太田聖悟<br>(五ヶ瀬町)   | 太田聖悟<br>(五ヶ瀬町)  | 太田聖悟<br>(五ヶ瀬町)  | 本校職員   | やまめの本<br>里<br>川(法人)    | 佐藤博一マリ子<br>(高千穂町)<br>アヲ稲葉ネナク<br>川原一之(NPO)  | 個人の探究するテーマにより、協力者や連携機関を選択し、依頼する。<br>コンソシアム(GIAHS協議会,宮崎県教育庁,5町村自治体,5町村中学校,宮崎大学,高千穂高校,地域NPO),共学共創チーム,<br>グローバルサポ-ター (国連食料農業機関),GIAHS地域住民,研究協力者,その他自治体や企業,本校職員<br>等 |                 |   |           |                   |                    |                   |                    | 発表会<br>準備          | 研究<br>発表会<br>[全員]  | 研究<br>発表会<br>[代表者] |                    |                    |
| 教科等横断的な<br>学習が考えられる<br>教科/科目例 | 社会,技術家庭,<br>道徳                 | 理科,技術家庭,<br>道徳  | 理科,技術家庭,<br>道徳                 | 理科,技術家庭,<br>道徳  | 理科,技術家庭,<br>道徳                | 理科,技術家庭,<br>道徳                 | 理科,技術家庭,<br>道徳   | 理科,技術家庭,<br>道徳  | 技術家庭  | 理科,技術家庭,<br>道徳   | 社会,道徳                  | 全教科  |  |                 |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
| 3年                            | テーマ                            | 自己と社会を知り、行動(マイプロジェクト)を繰り返し、思考を深化させる。(実践・深化)   |                                |   |                               |                                |  |   |   |  |                        |  |  |                 |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
|                               | 内容                             | オリエンテーション<br>GIAHS概論<br>わらじ作り   | マイプロ概論                         | GIAHSを<br>深く学ぶ  | マイプロジェク<br>~テーマ設定~            | 中間発表会の見<br>学                   | マイプロジェク<br>~実践~  | GIAHS<br>シンポジウム   | マイプロジェク<br>~プロジェクトをやってみよう~<br>グローバル探究研修(イギリス)に<br>向けての準備  | グローバル探究研修(イギリス)<br>語学研修プログラム<br>探究研修:マイプロジェクト報告(英語)<br>等 |                        |  |  |                 |   |           |                   | 発表会<br>準備          | 研究<br>発表会<br>[全員] | 研究<br>発表会<br>[代表者] |                    |                    |                    |                    |                    |
|                               | 連携機関<br>指導協力者<br>指導者等<br>(敬称略) | 地域サポ-ター<br>本校卒業生<br>本校職員  | 本校職員<br>4年生                    | GIAHS協議会<br>グローバルアカデミー<br>(NPO)   | 本校職員                          | コンソシアム<br>共創チーム<br>グローバルサポ-ター等 | 各自のマイプロジェクトにより、協力者や連携機関を選択し、依頼する。<br>コンソシアム,共学共創チーム,グローバルサポ-ター (国連食料農業機関),GIAHS地域住民,研<br>究協力者,その他自治体や企業,本校職員 | コンソシアム<br>共創チーム<br>グローバルサポ-ター<br>等  | 各自のマイプロジェクトにより、協力者や連携機関を選択し、依頼する。<br>コンソシアム(GIAHS協議会,宮崎県教育庁,5町村自治体,5町村中学校,宮崎大学,高千穂高校,地域<br>NPO),共学共創チーム,<br>グローバルサポ-ター (国連食料農業機関),GIAHS地域住民,研究協力者,その他自治体や企業,本校職員<br>等 | 海外交流アドハイザー<br>Global Academy(法人)                         |                        |  |  |                 |   |           |                   | 発表会<br>準備          | 研究<br>発表会<br>[全員] | 研究<br>発表会<br>[代表者] |                    |                    |                    |                    |                    |
| 教科等横断的な<br>学習が考えられる<br>教科/科目例 | 社会,技術家庭,<br>道徳                 | 全教科   | 社会,道徳                          | 全教科   |                               |                                | 全教科 (英語科を中心として)  |   |   |  |                        |  |  |                 |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
| 4年                            | テーマ                            | 問いつくりと普遍探究の実践を繰り返し、思考を深化させる。(実践・深化)   |                                |   |                               |                                |  |   |   |  |                        |  |  |                 |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
|                               | 内容                             | オリエンテーション<br>GIAHS概論<br>わらじ作り   | 課題研究概論                         | 普遍探究活動<br>~課題設定~  |                               |                                | 中間発表会<br>~課題設定報告~  | 哲学対話  | Gokase-ToK①   | Gokase-ToK②  | Gokase-ToK③            | GIAHS<br>シンポジウム  | Gokase-ToK④  | Gokase-ToK⑤     | 普遍探究活動<br>~研究発表準備~  |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    | 発表会<br>準備          | 研究<br>発表会<br>[全員]  | 研究<br>発表会<br>[代表者] |
|                               | 連携機関<br>指導協力者<br>指導者等<br>(敬称略) | 地域サポ-ター<br>本校卒業生<br>本校職員  | 本校職員                           | 本校職員,コンソシアム,共創チーム,グローバルサポ-ター等   |                               |                                | コンソシアム<br>共学共創チーム<br>グローバルサポ-ター等   | 東京大学UTOP<br>梶谷真司<br>(大学)  | 本校職員  | コンソシアム<br>共学共創チーム<br>グローバルサポ-ター等                         | 本校職員                   | 個人の探究する課題によって、協力者や連携機関を選択し、依頼する。<br>コンソシアム(GIAHS協議会,宮崎県教育庁,5町村自治体,5町村中学校,宮崎大学,高千穂高校,地域NPO),共学共創チーム,<br>グローバルサポ-ター (国連食料農業機関),GIAHS地域住民,研究協力者,その他自治体や企業,本校職員<br>等 |  |                 |   |           |                   |                    |                   | 発表会<br>準備          | 研究<br>発表会<br>[全員]  | 研究<br>発表会<br>[代表者] |                    |                    |                    |
| 教科等横断的な<br>学習が考えられる<br>教科/科目例 | 地理歴史,家庭                        | 全教科   |                                |   |                               |                                |  |   |   |  |                        |  |  |                 |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
| 5年                            | テーマ                            | 個人のテーマに基づいて普遍探究活動を繰り返すことで普遍的な問いに迫り、成果をまとめる。(探究・表現)  |                                |   |                               |                                |  |   |   |  |                        |  |  |                 |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
|                               | 内容                             | オリエンテーション<br>GIAHS概論<br>わらじ作り   | SDGs概論                         | 普遍探究活動<br>~調査・分析・考察~  |                               |                                | 中間発表会  | 普遍探究活動<br>~調査・分析・考察~  |   |  | 普遍探究活動<br>~研究発表準備~     |  |  |                 |   |           |                   |                    | 発表会<br>準備         | 研究<br>発表会<br>[全員]  | 研究<br>発表会<br>[代表者] |                    |                    |                    |                    |
|                               | 連携機関<br>指導協力者<br>指導者等<br>(敬称略) | 地域サポ-ター<br>本校卒業生<br>本校職員  | 本校職員                           | 個人の探究する課題により、協力者や連携機関を選択し、依頼する。<br>コンソシアム,共学共創チーム,グローバルサポ-ター (国連食料農業機<br>関),GIAHS地域住民,研究協力者,その他自治体や企業,本校職<br>員<br>等 |                               |                                | コンソシアム<br>共学共創チーム<br>グローバルサポ-ター等   | 個人の探究する課題により、協力者や連携機関を選択し、依頼する。<br>コンソシアム(GIAHS協議会,宮崎県教育庁,5町村自治体,5町村中学校,宮崎大学,高千穂高校,地域NPO),共学共創チーム,<br>グローバルサポ-ター (国連食料農業機関),GIAHS地域住民,研究協力者,その他自治体や企業,本校職員<br>等 |   |  |                        |  |  |                 |   | 発表会<br>準備 | 研究<br>発表会<br>[全員] | 研究<br>発表会<br>[代表者] |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
| 教科等横断的な<br>学習が考えられる<br>教科/科目例 | 地理歴史,家庭                        | 全教科   |                                |   |                               |                                |  |   |   |  |                        |  |  |                 |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
| 6年                            | テーマ                            | 普遍探究の成果を発信する。(探究・表現)  |                                |   |                               |                                |  |   |   |  |                        |  |  |                 |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
|                               | 内容                             | オリエンテーション<br>GIAHS概論<br>わらじ作り   | 論文(日本語)の作成                     | 日本語ディスカッ<br>ションの手法を学ぶ   | 論文(日本語)の作成                    |                                |  | 日本語<br>対話<br>(本校)   | 日本語<br>対話<br>(GIAHS地域)  | 英語<br>対話①  | 英語<br>対話②              | GF探究の<br>まとめ   |  |                 |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
|                               | 連携機関<br>指導協力者<br>指導者等<br>(敬称略) | 地域サポ-ター<br>本校卒業生<br>本校職員  | 本校職員                           | 宮崎大学<br>(大学)  | 本校職員                          |                                |  | GIAHS<br>地域住民   | グローバルアカデミー(NPO)<br>県内ALT(自治体)   | 本校職員   | 全教科<br>(英語科を中心として)     |  |  |                 |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
| 教科等横断的な<br>学習が考えられる<br>教科/科目例 | 地理歴史,家庭                        | 全教科   |                                |   |                               |                                |  |   |   |  |                        |  |  |                 |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |
| 教育課程外の<br>取り組みとの連携            |                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ GIAHS ステディファ-への参加・参画 [活動内容:コンソシアム内の中高生や県内外の大学生や留学生とのステディファ-の企画・運営、参加を行う。] (対象:3~5年生)</li> <li>○ 世界農業遺産・ユネスコエコパーク中学生サミットへの参加・参画 [活動内容:コンソシアム内の中学生や他のGIAHS地域の中学生サミットの運営、参加を行う。] (対象:参加3年生,運営協力4,5年生)</li> <li>○ GIAHS マイプロ合宿への参加・参画 [活動内容:宮崎大学と地域の高校生と、自分と地域を結びマイプロジェクトの研修会の企画・運営、参加をする。] (対象:3~5年生)</li> <li>○ GIAHS アカデミ- (高校生自主活動グループ)への参加 [内容:高千穂高校の参加者と共に高千穂食べる通信の出稿、イベントの企画・運営、参加を行う。] (対象:4~6年生)</li> <li>○ 海外フィールドワーク(フィリピン,イフガオ州) [活動内容:海外のGIAHS地域をフィールドとし、自身の課題研究と紐付けた活動を行う。] (対象4年生)</li> </ul> |                                |   |                               |                                |  |   |   |  |                        |  |  |                 |   |           |                   |                    |                   |                    |                    |                    |                    |                    |                    |

## 2-3-1 郷土探究1(1年生・2単位)

### (1) コースのねらい

1 学年における郷土探究の時間は「活動を通して感性を磨き、問いを立てる」をテーマに取り組んだ。本校は中山間地域にあり、四季を五感で感じることでできる学校である。一年を通して活動を行う中で、生徒の感性を磨くことができる。また、五ヶ瀬町は古くからの伝統や文化が根づいた町である。本校に入学して間もない彼らが活動を通して、地域を知り、問いを立てることで、地域の一員として、主体的に自分たちの地域のことを見つめることが期待できる。それが「野性味あふれる地球市民」の素地の一部になると考える。

### (2) コースの概要

- ① 五ヶ瀬町を中心とする GIAHS 圏域の自然や生活・文化を題材にフィールドワークを行い、自分の目で見て、聞いて、肌で感じることを通して、生徒は人のつながりや他者理解の大切さ、新たなものの見方や考え方に気づくことができるであろう。
- ② 地域の方を講師として招聘し、学習を実施していくことで、生徒は様々な人との触れ合いを通して、相手の立場でものごとを考えたり、自分の意思を的確に伝えたりするなどのコミュニケーション能力を向上させることができるであろう。
- ③ 活動中だけでなく、事前・事後指導を通して「なぜ？」という問いを立てさせたり、学習の振り返りをさせたりすることで、主体的に自ら課題を設定し、探究し、そして表現していくという学び方を身につけることができるであろう。

### (3) 評価方法

毎回、学習プログラムや感想をまとめるワークシートを配付し、活動後の自己評価を行わせるとともに、活動の中で生じた疑問や発見などをまとめさせる。また、グローバルフォレストピア探究の第13回から第16回までの時間を探究活動のまとめとし、1年間の探究活動を通して特に興味・関心を持ったことをまとめ、活動ごとの調査研究発表会で発表を行う。

## (4) 年間カリキュラム

| 実施回  | 実施日   | 学習内容          | 活動場所            |
|------|-------|---------------|-----------------|
| 第1回  | 5/21  | 田植え           | 本校実習田           |
| 第2回  | 5/22  | わらじ作り         | 体育館             |
| 第3回  | 5/28  | 用水路見学         | 尾平堰公園           |
| 第4回  | 6/11  | 茶摘み・釜炒り体験     | 本校茶園            |
| 第5回  | 6/18  | GIAHS 講義・棚田見学 | 鳥の巣棚田           |
| 第6回  | 7/2   | 神話            | 高千穂神社<br>天の岩戸神社 |
| 第7回  | 7/16  | カヌー体験         | 本校プール           |
| 第8回  | 9/23  | 荒踊り(体験含む)     | 坂本小学校<br>荒踊りの館  |
| 第9回  | 10/1  | 稲刈り           | 本校実習田           |
| 第10回 | 10/22 | 脱穀            | 本校実習田           |
| 第11回 | 11/5  | 竹細工           | 技術室             |
| 1日研修 | 11/13 | 石橋見学          | 通潤橋他            |
| 第12回 | 12/3  | 餅つき           | 中庭・調理室          |
| 第13回 | 12/17 | 探究活動          | 1年教室            |
| 第14回 | 1/21  | 探究活動          | 1年教室            |
| 第15回 | 2/4   | 探究活動          | 1年教室            |
| 第16回 | 2/25  | 探究活動          | 1年教室            |
| 第17回 | 3/5   | 発表会準備         | 1年教室            |
| 第18回 | 3/7   | 調査研究発表会(コース別) | 技術室他            |
| 第19回 | 3/12  | 調査研究発表会(全体会)  | 体育館             |

※わらじ作りは臨時休校のため延期され、この日程となった。

### (5) 成果と課題

1年間を通して「問う」をテーマに郷土探究学習を行った。年間を通して生徒に考えさせたことは「問いを立てること」の重要性である。今年度は、全ての活動前に事前指導を実施し、さらに体験したこと全てに対して問いを立てる「はてな貯金」を実施した。問いを立てることを習慣化することで、活動に主体性を持たせ、問いの質を高める足がかりにすることが目的である。「問う」ことで、全ての活動が「自分事」となり、活動に主体的に参加できる。また、講師の方々への感謝の気持ちが生まれ、「五ヶ瀬町民」としての意識が芽生える。さらに、「答えのない問い」に立ち向かうことで、他者との対話が生まれ、自分の経験や、学習内容から最適解を生み出そうとする姿勢が身につく。問うことを通して、地域の方々の「思い」と活動の重要性を生徒が理解し、問いの質を高め、課題研究へと繋げることが次年度への課題である。

## 2-3-1 郷土探究2(2年生・2単位)

### (1) コースのねらい

このコースでは、命を支える農業を学び、新たな発見から問いを立てることをねらいとして実施した。1年生では地域の自然や生活・文化などを題材とした学習プログラムを実施しており、2年生では「命」を学ぶことで「関連づける力」「繋がる力」を育てていきたい。

### (2) コースの概要

- ① 学校菜園で農作物を育成する農業体験を中心に活動した。作物はサツマイモ、ピーマン等、6種類の野菜を栽培した。また、ニワトリの解体、ヤマメの採卵作業体験など、食物は命が繋がっていることを実感し、自然の中における自分自身や他者との存在の繋がりに気づき、命の大切さを見つめる。
- ② 1日研修では、土呂久地区現地研修をおこない、公害について知り、現在の土呂久を知ることによって地域の課題について問いを立て、自分たちの生活と関連づける。
- ③ 探究活動を通して、これまでの体験活動や講話を通じて学んだことから「問い」を見つけ、調査や実験を通して問題を解決する力を育む。また、発表会を通して、自分の考えを他人に伝える力を育むとともに、様々な人の意見や考えに触れることによって、自分自身の考えを深める機会とする。

### (3) 評価方法

- ① 体験活動での活動の様子、ワークシートに「発見したこと」、「新たな問い」、「感想」を記入させることで、それぞれの活動で育てたい5つの力の重点項目を評価する。
- ② 探究活動での活動の様子、研究内容、発表を評価する。

### (4) 年間カリキュラム

| 実施回 | 実施日  | 学習内容         | 活動場所 |
|-----|------|--------------|------|
| 第1回 | 5/21 | 畝作り、苗植え体験    | 学校菜園 |
| 第2回 | 5/28 | 農作業①         | 学校菜園 |
| 第3回 | 6/17 | 農作業②         | 学校菜園 |
| 第4回 | 7/9  | 命のつながり(鶏の解体) | 寮周辺  |

|      |       |                     |               |
|------|-------|---------------------|---------------|
| 第5回  | 7/16  | 農作業③                | 学校菜園          |
| 第6回  | 9/24  | 農作業④                | 学校菜園          |
| 第7回  | 10/1  | 収穫体験                | 学校菜園          |
| 第9回  | 10/22 | やまめの産卵作業体験          | やまめの里         |
| 第10回 | 11/5  | 調理経験                | 調理室           |
| 1日研修 | 11/13 | 命と産業<br>～土呂久地区現地研修～ | 高千穂町<br>土呂久地区 |
| 第11回 | 12/3  | 探究活動～テーマ設定～         | 2年教室等         |
| 第12回 | 12/17 | 探究活動～調査・分析・考察～      | 2年教室等         |
| 第13回 | 1/28  | 探究活動～調査・分析・考察～      | 2年教室等         |
| 第14回 | 2/4   | 探究活動～発表準備～          | 2年教室等         |
| 第15回 | 2/25  | 探究活動～発表準備～          | 2年教室等         |
| 第16回 | 3/5   | 発表会準備               | 音楽室・美術室       |
| 第17回 | 3/7   | 調査研究発表会(コース別)       | 音楽室・美術室       |
| 第18回 | 3/12  | 調査研究発表会(全体会)        | 体育館           |

### (5) 成果と課題

1年間を通し、様々な体験活動を通して、「命」について学習してきた。農業体験やヤマメの採卵体験、ニワトリの解体では「命のつながり」を実感でき、新たな問いを立てることができた。また、例年行われている1日研修の土呂久地区現地研修では、本年度からプログラムを見直し土呂久地区の現在を知る活動を行った。土呂久地区を「公害の地域」としてのみ捉えるのではなく、牛の肥育・繁殖や狩猟など、現在の土呂久を知ることによって、より広い視野を持つ生徒の育成に繋がると考える。以下は、体験活動を通しての生徒の感想である。

- 今回のフォレストピア探究を通して、普段何気なく口にしている食材の有り難さを感じることができた。
- 命のつながりの学習では、最初はなぜこんな学習をしなければならないのだろう？と疑問に感じていたが、実際に鶏を締めて食べることで、自分の命は、自分以外の別の命をいただくことで繋げることができていると実感することができた。
- 土呂久公害学習を通して、産業を活性化させるために、人の命が犠牲になったことを実感した。

最後に、充実した体験活動のお世話をしてくださった講師の方々に感謝する。特に、時間外に何度も菜園の見回り、手入れをしてくださった太田聖悟さんに対して、この場を借りて心より感謝申し上げたい。

## 2-3-1 実践探究3(3年生・2単位)

### (1) コースのねらい

ねらいは、自らの問いが社会とつながり、よりよい社会を形成する市民としての意識を醸成し、実践する力を身に付けさせることである。「郷土探究1・2」において、地域について深く学んだことを基礎として、2つの力を身に付けさせることに重きを置いた。1つ目は、自分のWill(思い・興味・関心)は何か?社会におけるNeeds(課題)は何か?について丹念に思考し、問いを立てる力。2つ目は、失敗を恐れない知的探究・実験・新たな環境への挑戦を行い、新しいアイデアを試す「試みる力」である。本校が日頃から大切にしている対話をベースに、テーマ設定から実践に至るまで、生徒間もしくは教員との間でお互いがアイデアを出し合い、1年間を通じて高い意欲をもって取り組むことを目指す。

### (2) コースの概要

#### 【マイプロジェクト活動】

- ・Will(思い・興味・関心)を、様々なワークを通じて探すことで、自らを深く見つめる。
- ・SDGsなどをキーワードとして、社会のNeeds(課題)を探して、社会を知る。
- ・WillとNeedsが重なる部分から、マイプロジェクトのテーマ設定を行い、積極的にフィールドワーク・実験等を行う。
- ・最終成果を日本語だけでなく、英語によるディスカッションの中で発表する。

#### 【実施方法】

1学期までは、一律に対話を中心とした様々なワークを行い、夏休み明け以降は、生徒約8名に対し、1人の教員が担当するグループを作り、ゼミ形式で行った。生徒のテーマ別に、学年団教員の得意分野を生かした担当グループ構成とし、進捗状況報告については、各担当と生徒が「壁打ちタイム」を通じて綿密に話し合う環境を作ることで、個別最適化を図った。

### (3) 評価方法

実施要項に本校が設定する身に付けさせたい5つの力を示し、毎回の活動後、成果と課題について記入させた。生徒企画によるマイプロ中間発表会では、「モットカード」による生徒間相互評価を行った。また、最終発表会後には、全員の発表動画・発

表スライドをまとめた「GF 調査研究発表会 特設サイト」内のコメント送信欄を通じて、生徒間・保護者・教員から発表に対するフィードバックを行った。

### (4) 年間カリキュラム

| 実施回  | 実施日   | 学習内容                           | 活動場所  |
|------|-------|--------------------------------|-------|
| 第1回  | 5/21  | マイプロ概論(先輩とオンラインで)              | 視聴覚教室 |
| 第2回  | 5/28  | My Will 年表 My Will Lists 100   | 教室等   |
| 第3回  | 6/11  | マイプロマッピング・対話                   | 教室等   |
| 第4回  | 6/18  | GIAHSについて深く学ぶ                  | オンライン |
| 第5回  | 7/9   | マイプロテーマ設定                      | 教室等   |
| 第6回  | 7/16  | 五ヶ瀬 TSUNAGU                    | 体育館   |
| 第7回  | 9/24  | マイプロ実践①・壁打ち                    | 教室等   |
| 第8回  | 10/1  | マイプロ実践②・壁打ち・アンケート、インタビューの手法    | 教室等   |
| 第9回  | 10/22 | マイプロ実践③・壁打ち<br>図書による文献調査の手法    | 教室等   |
| 第10回 | 11/5  | マイプロ実践④・壁打ち<br>インターネットによる調査の手法 | 教室等   |
| 1日研修 | 11/18 | GIAHS シンポジウム                   | 体育館   |
| 第11回 | 12/17 | マイプロ実践⑤・壁打ち                    | 教室等   |
| 第12回 | 1/28  | マイプロ実践⑥・まとめシート                 | PC室等  |
| 第13回 | 2/5   | マイプロ実践⑦・スライド作成                 | PC室等  |
| 第14回 | 2/25  | マイプロ実践⑧・英語練習                   | PC室等  |
| 第15回 | 3/7   | マイプロ日本語発表<br>英語ディスカッション        | 大会議室  |
| 第16回 | 3/11  | 特設サイト上でマイプロ振り返り                | PC室等  |

### (5) 成果と課題

実践探究3における「マイプロジェクト」を通じて、生徒一人一人の新たな特性や個性が開花した。自分自身を深く見つめ、今まで知らなかった自分に気づく生徒が多く見られた。また、マイプロ中間発表会を生徒達自身の企画で実施し、他県からも多くの参加者があるなど、生徒の試みる力が目に見える形で発揮された。

今年度は、コロナ禍の影響で特に地域におけるフィールドワーク等への制約が大きかったが、むしろその状況を逆手にとって、急速に整備が進んだICT機器を活用して、積極的に外部との繋がりを持ち、SNS等を使って実践を発信しようとする生徒が多くみられた。

海外研修が中止となったことから、最終発表会において、地域の英語話者に対する英語発表を実施したが、来年度以降もこのような機会を作り、探究活動を通じた外国語能力の育成をさらに図る必要がある。

## 2-3-1 実践探究4(4年生・2単位)

### (1) コースのねらい

考える価値のある問いの作成, また探究活動の実践による思考の深化を目標とした。本学年は例年と異なり, イギリスでの語学研修を通じた3年次までの研究のまとめ・発表を実施できなかった。その代替となるよう英語での緊張感を伴う研究発表の体験(10/1)、また外部講師によるオンライン講義の開設(9/24、11/5、12/19)など、今年度独自の活動も交えながら以下2点の獲得を主眼とした。

- ① 「問う力」, ToK による知の理論 (Theory of Knowledge)を学び, 問いの持つ力について、また意味のある問いとはなにかを考察する。そしてそれを自らの研究課題に応用し、課題解決に向け思考を深化させる「問い」へと昇華・結実できるようになる。
- ② 「関連づける力」, 大学や全国の GIAHS 地域団体などから講師を招聘しての講義受講により、社会課題への関心を醸成し、身近な社会課題をどのように発見・解決していくかを考察できるようになる。

### (2) コースの概要

#### 【ToK】

- ・Theory of Knowledge (国際バカロレアの科目「知の理論」を参考) に関する講義と実習を通して、問い作りのための多角的な視点を涵養する。
- ・哲学対話の講義と実践を通して、根源的な問いの発見や批判的かつ論理的な思考方法を身につける。
- ・問い作りの実践を通して、問いの構造化をはかり、社会との関連性を踏まえながら今後取り組む探究活動に普遍性を持たせる。

#### 【ポスターセッション】

- ・ポスターセッションを通して、探究活動をまとめ今後の活動を整理する。また来年度の発表に向けて具体的な準備を行う。

### (3) 評価方法

#### 【アウトライン・ポスター作成】

- ・ポスター作成の際に、自らが取り組む探究活動における普遍的な問いを明記する。

- ・アウトライン等を作成し、探究活動の深まりを担当職員で評価する。

#### 【ポスターセッション】

- ・ポスターセッションを行い、担当職員や生徒同士の相互評価を行う。(グジョブカード等を利用する)

### (4) 年間カリキュラム

| 実施回  | 実施日   | 学習内容             | 活動場所  |
|------|-------|------------------|-------|
| 第2回  | 5/28  | 課題研究概論①(マイプロ)    | 図書室他  |
| 第3回  | 6/11  | 課題研究概論②(問い作り)    | 図書室他  |
| 第4回  | 6/18  | 課題研究概論③(問い作り)    | PC 教室 |
| 第5回  | 7/9   | 課題研究概論④(問い作り)    | 図書室他  |
| 第6回  | 7/18  | 課題研究概論⑤(問い作り)    |       |
| 第7回  | 9/24  | 哲学対話(オンライン実施)    |       |
| 第8回  | 10/1  | グローバル探究研修(オンライン) | 視聴覚室  |
| 第9回  | 10/22 | ToK①(概論・歴史)      | 視聴覚室  |
| 第10回 | 11/5  | 課題研究概論⑥(岡本氏講義)   | 視聴覚室  |
| 第11回 | 12/5  | ToK②(芸術・数学)      | 視聴覚室  |
| 第12回 | 12/19 | 課題研究概論(地球研)      | オンライン |
| 第13回 | 1/30  | ToK③(人間科学・倫理)    | 視聴覚室  |
| 第14回 | 2/5   | 探究活動・ポスター作成      | 4年教室  |
| 第15回 | 2/25  | 探究活動・ポスター作成      | 4年教室  |
| 第16回 | 3/5   | 探究活動・ポスター作成      | 4年教室  |
|      | 3/7   | 研究発表会 I          | 体育館等  |
| 第17回 | 3/11  | 調査研究発表会(コース別)    | 各会場   |
|      | 3/12  | 研究発表会(全大会)       | 体育館   |

### (5) 成果と課題

海外研修を実施できなかったため、そこで獲得しえたであろう体験や学びをどのように補填するかに苦慮した一年であった。研究調査部を中心に、岡本さん(Glocal Academy)のサポートにより実施したオンラインでの研究発表は生徒に大きな変化をもたらす目標である「問う力」と「関連づける力」の涵養に大きな一助となった。しかしながら実施できなかった研修の穴はやはり大きく、来年度感染対策に配慮したうえで何かしらの校外研修の実施が強く求められる。

年間を通じての研究結果をポスターという形式に落とし込み、セッションを通じて表現するという作業ではその問題意識や変革への意欲が強く感じられた。それぞれファミリーから多くの感想や意見を得られており、十分な振り返りと問の再構築を行って来年度の研究発表へとつなげたい。

## 2-3-1 普遍探究5(5年生・2単位)

### (1) コースのねらい

「個人のテーマに基づいて普遍探究活動を繰り返すことで、普遍的な問いに迫り、成果をまとめること」をテーマに探究活動を行った。探究活動を通して、育成を目指した資質・能力を以下に示す。

#### ①見る力

自らの研究をグローバルな視点を持って問い直す場面を繰り返し設け、見る力の育成を目指した。また有識者とのつながり構築し、プロの視点から研究へのアドバイスをいただく場面を設けた。

#### ②問う力

「研究の壁打ち」と題し、担当教諭との相談を繰り返し行い、対話を通して、研究の意義、問いを深められるよう問う力の育成を目指した。

#### ③関連づける力

「五ヶ瀬 TSUNAGU」を行い、有識者と研究について談義を行い、調査についての基本的な知識や技能、他分野との繋がりを持たせ、積極的にフィールドワークを行い、関連づける力の育成を目指した。

#### ④試みる力

調査活動やフィールドワーク、実践を通して、チャレンジできる場面、環境を準備し、挑戦することを経験させ、試みる力の育成を目指した。

#### ⑤繋がる力

地域サポーターや外部の協力者との連携がしやすいよう支援を行い、人と繋がる経験をさせることで繋がる力の育成を目指した。さらに協力依頼等は生徒自ら行うよう指導を行った。

### (2) コースの概要

#### ①普遍探究活動

自らの課題研究の調査活動（研究相談、フィールドワーク、実践研究 等）を行う。

#### ②五ヶ瀬 TSUNAGU

外部講師や地域サポーターを招き、人と人とのつながり、新しい知見やアイデアとのつながりを創造し、課題研究を発展させる。

#### ③課題研究発表大会

自らの課題研究の論文要約、プレゼンテーションを作成し、成果の発表を行う。さらに外部の研究発表大会への参加を行う。

### (3) 評価方法

#### ①普遍探究活動

活動の記録、論文要約、プレゼンテーション

#### ②五ヶ瀬 TSUNAGU

活動の記録、観察

#### ③課題研究発表大会

活動の記録、論文要約、プレゼンテーション、外部識者の評価

### (3) 年間カリキュラム

| 実施回  | 実施日   | 学習内容                     | 活動場所    |
|------|-------|--------------------------|---------|
| 第1回  | 4/24  | わらじ作り(中止)                | 体育館     |
| 第2回  | 5/21  | オリエンテーション(中止)            | 5A 教室ほか |
| 第3回  | 5/28  | オリエンテーション<br>SDGs 概論     | 5A 教室ほか |
| 第4回  | 6/11  | 普遍探究活動①                  | 5A 教室ほか |
| 第5回  | 6/18  | 普遍探究活動②                  | 5A 教室ほか |
| 第6回  | 7/9   | 普遍探究活動③                  | 5A 教室ほか |
| 第7回  | 7/16  | 五ヶ瀬 TSUNAGU              | 5A 教室ほか |
| 第8回  | 9/24  | 普遍探究活動④                  | 5A 教室ほか |
| 第9回  | 10/1  | 普遍探究活動⑤                  | 5A 教室ほか |
| 第10回 | 10/22 | 普遍探究活動⑥                  | 5A 教室ほか |
| 第11回 | 11/5  | 普遍探究活動⑦                  | 5A 教室ほか |
| 1日研修 | 11/13 | 五ヶ瀬町政策提言コンテスト<br>普遍探究活動⑧ | 5A 教室ほか |
| 第12回 | 12/3  | 普遍探究活動⑨、発表会準備            | 5A 教室ほか |
| 第13回 | 12/17 | 普遍探究活動⑩、発表会準備            | 5A 教室ほか |
| 第14回 | 1/21  | 普遍探究活動⑪、発表会準備            | 5A 教室ほか |
| 第15回 | 2/4   | 普遍探究活動⑫、発表会準備            | 5A 教室ほか |
| 第16回 | 2/25  | 普遍探究活動⑬、発表会準備            | 5A 教室ほか |
| 第17回 | 3/5   | 発表会準備                    | 5A 教室ほか |
| 第18回 | 3/7   | 調査研究発表会(コース別)            | 5A 教室ほか |
| 第19回 | 3/12  | 調査研究発表会(全体会)             | 5A 教室ほか |

※第1回～第2回は新型コロナウイルス感染症対策のため中止

### (4) 成果と課題

新型コロナウイルス感染症拡大の影響でフィールドワークができない中、ICT 機器を上手く活用し、外部の協力者と繋がることができ、研究の質を下げることなく、できる範囲内で最大限のことができた。また、移動制限のある中で、五ヶ瀬 TSUNAGU での地域サポーターとの繋がりを構築した効果は非常に大きかった。オンラインで外部と繋がることができた一方で、寮生活であることで時間等の制限があることに難しさも感じた。



## 2-3-1 普遍探究6(6年生・1単位)

### (1) コースのねらい

6年間のグローバルフォレストピア探究の集大成として、これまで行ってきた課題研究のまとめと振り返り、その成果を表現・発信することをねらいとした。今年度は、昨年度の課題研究発表大会中止を受け、研究発表動画を作成することからスタートした。その後、論文作成を行いながら、日本語、英語ディスカッションを表現・発信の場として設定した。

### (2) コースの概要

#### 【研究発表動画の作成】

- ①プレゼン資料をもとに研究発表を行う。
- ②ZOOMアプリのレコーディング機能を利用し、動画の撮影を行う。
- ③作成した動画は学びの森ポータルサイトへ掲載し、外部への発信を行う。

#### 【日本語ディスカッション】

##### ①講義と実践演習（外部講師）

宮崎大学講師の伊藤健一先生による講義とワークショップ「日本語ディスカッションの手法を学ぶ」を実施し、ディスカッション本番に備えた。

##### ②グラフィックレコーディングの手法を学ぶ

ディスカッションの記録方法として、グラフィックレコーディングの手法を学び、活用した。

③地域サポーターや外部講師等への研究報告や対話を通し、感謝の気持ちを伝えるとともに自己の学びを深めさせた。

④普遍探究活動を通して生まれた地域課題に対する新たな問いを、対話を通して深化させ、グローバルな視野のもと、自らの力で課題解決に向け、学び続けようとする態度を育成した。

#### 【英語ディスカッション】

##### ①県内ALTとの英語ディスカッション

オールイングリッシュで実施した。ALTによる細かな審査・評価は行わず、事後にコメントをいただき生徒に還元する機会を設けた。生徒は各自で振り返りを行った。

#### 【GF探究リフレクション】

①これまでの学習の成果を具体的に言語化することを意識させ、アウトプット中心の活動を設定した。1年から6年までの探究活動を振り返り、本校が育成を目指す、5つの力について、どのような力なの

か、自分たちで定義づけを行った。さらに、「探究とは何か」という答えを考え、表現した。

### (3) 評価方法

論文やプレゼン動画、ディスカッション資料や観察等を評価の対象とした。さらに個々の活動におけるリフレクションを評価対象とした。評価は学年団職員で行い、次時の活動の導入あるいはSHRや学年通信等を通してその都度フィードバックを行った。

### (4) 年間カリキュラム

| 実施回  | 実施日   | 学習内容           | 活動場所  |
|------|-------|----------------|-------|
| 第1回  | 5/21  | 臨時休校のため中止      | -     |
| 第2回  | 5/28  | 研究発表動画撮影       | 6年教室他 |
| 第3回  | 6/11  | 研究発表動画撮影, 論文作成 | 6年教室他 |
| 第4回  | 6/18  | 研究発表動画撮影, 論文作成 | 6年教室他 |
| 第5回  | 7/9   | 論文作成           | 6年教室他 |
| 第6回  | 7/16  | ディスカッションの手法を学ぶ | 視聴覚室  |
| 第8回  | 9/24  | グラレコにチャレンジ     | 6年教室  |
| 第9回  | 10/1  | 五ヶ瀬×飯野高校合同探究   | 6年教室他 |
| 第9回  | 10/22 | 日本語ディスカッション    | AL教室  |
| 1日研修 | 11/5  | 英語ディスカッション①    | AL教室  |
| 第10回 | 11/13 | 英語ディスカッション②    | AL教室  |
| 第11回 | 12/3  | GF探究リフレクション    | AL教室  |

### (5) 成果と課題

コロナ禍により、昨年度は本校の課題研究発表大会をはじめ、外部の研究大会もほぼ全て中止となった。そこで今年度の普遍探究6は、まず自分たちが取り組んできた課題研究をアウトプットする場面を設けることが当初の目標となった。その結果、研究発表動画を作成し、本校のポータルサイトへ掲載することができた。結果、動画は下級生の研究を行う上の良い指標となり、様々な効果を生み出したと考えられる。

さらに、今年度は下級生への引き継ぎを行う場を設けた。これまで本校の研究活動は、全国でも素晴らしい結果を残してきた一方で、当事者の卒業とともに終了してしまうものが多く、本校の課題の一つであった。現在、先輩たちの研究を先行研究とし、さらに発展していく流れが出てきたことは素晴らしいことである。

昨年度の6年生と違い、今年度は6年次に論文の作成を行った。大学入試を控える6年次に論文作成を行うことが研究の質にどう影響したかは精査する必要がある。

## 2-4-1 グローバルフォレストピア

### 調査研究発表会

|                                 |               |
|---------------------------------|---------------|
| GroupD                          | 金丸菜尋・黒木未麗・俵匠見 |
| 五ヶ瀬町における関係人口創出事業<br>～小学生向けキャンプ～ |               |

#### (1) 事業のねらい

本校では開校当初より、グローバルフォレストピア探究の成果発表の場として、3月に「グローバルフォレストピア調査研究発表会」を実施している。

そこで、グローバルフォレストピア探究における1年間の研究成果を発表する活動を通して、生徒一人ひとりの発達段階に応じた「見る力」「問う力」「試みる力」「関連付ける力」「繋がる力」を身につけ、「グローバルシチズン(地球市民)」の育成を目指す。

#### (2) 事業の概要

[内容]

|      |   |
|------|---|
| 発表会1 | 令和3年3月7日(日)実施                                   |
| ○対象  | 1年生～5年生   |
| ○内容  | 各学年の学習目標に応じて、1年間の活動内容をまとめ、学年毎に発表及び本校職員による審査を行う。 |
| 発表会2 | 令和3年3月9日(火)実施                                   |
| ○対象  | 2年生   |
| ○内容  | 発表会1の審査で選ばれた8名の中から、発表会3での学年代表となる生徒4名を本校職員が選考する。 |
| 発表会3 | 令和3年3月12日(金)実施                                  |
| ○対象  | 1年生～5年生   |
| ○内容  | 発表会1及び2で選ばれた各学年の代表生徒による全体発表及び外部審査員による審査を行う。     |

#### ■発表会1代表作品(後期課程5年)

各 Group から1つずつ最優秀作品を選出

|  |       |
|--|-------|
| GroupA   | 古賀 綾奈 |
| 河内謎解き町探検 ～故郷を慕う気持ちの醸成～                                 |       |
| GroupB   | 後藤 清楓 |
| 廃棄物の活用～ジビエ給食定着化を目指して～                                  |       |
| GroupC   | 出井 阿茶 |
| 若者の低投票率改善のための提案<br>～高校生を主体とした親子で選挙を学ぶ活動の<br>実践と分析を通して～ |       |



発表会3におけるプレゼンテーション

#### (3) 事業の成果と課題

今年度の成果は、「リアル×リモート」発表会の実施である。発表会1では、学年単位で全生徒によるプレゼンテーションならびにポスターセッションを実施した。その発表の様子を保護者にリモート配信し、かつ本校のポータルサイトに動画をオンデマンドした。さらにポータルサイトに Google forms を活用することで、保護者や生徒、職員による発表者へのフィードバックが可能な状態にした。

発表会3は、校内に発表スタジオを設置し、外部審査員に対するプレゼンテーションの様子を、各教室で全校生徒が視聴する形態をとった。また、その様子をリモートで配信するというハイブリッド型の発表会を実施した。リモートだけでは伝わりにくい発表者の熱量を、審査員や視聴者も感じることができたと振り返りをいただいた。課題は、「継続性と自走性の向上」である。リモート配信やオンデマンドには、ある程度の知識が必要である。学校内での知識の共有や、外部人材の活用など「リモート体制」のシステム化を図る必要性を感じている。

## 2-3-2 外国語教育の先進的な取り組み

### (1) 事業のねらい

総合的な探究の時間で取り組む地域課題研究を紐付けながら、言語の習得はもちろんのこと、世界の文化や伝統、多様性への理解を促すための外国語教育を展開する。各学年における主な取り組みは、(2)に示す通りである。

### (2) 事業の概要

#### ① 3年生

令和3年3月5日から同13日にかけて、グローバルフォレストピア探究研修をイギリス(ロンドン・オックスフォード)にて実施し、現地大学生に対してのマイプロジェクトの発表、ホームステイ体験、文化施設等の見学等を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、中止を決定した。

#### ② 4年生

12月に本校4年生の生徒6名、高千穂高校の生徒2名を対象に、フィリピン・イフガオ州での海外フィールドワークを実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、中止を決定した。

代替研修として、12月17日に金沢大学より中村浩二教授、また大学共同利用法人 総合地球環境研究所より、阿部健一教授、嶋田奈穂子研究員を招聘し、オンライン形式でGIAHS地域に関するプレゼンテーションや、バックワードデザインによるディスカッションを行った。

#### ③ 5年生

11月7日に、宮崎大学国際連携センターの協力の下、世界各地からの留学生8名と高千穂高校生1年生10名を迎え、本校の5年生36名がGIAHS地域を取り巻く課題をテーマに据えて、様々なアクティビティやグループ対話を全て英語で行う「English Day」を実施した。今回は、国連大学より Evonne Yiu 氏を招聘し、ポストコロナ禍を見据えたGIAHS地域の発展について、基調講演を実施した。

#### ④ 6学年

11月5日と13日の2日間、県内のALT6名を本校に迎え、これまでの課題研究を振り返る英語ディスカッションを実施した。研究内容についての質疑応答を英語で行い、そこから生まれた問いについて、グループでの対話を通じて学びを深めた。



6年生 英語ディスカッションの様子

### (3) 事業の成果と課題

3年生のグローバルフォレストピア探究研修はやむを得ない理由で中止となったが、本年度の実績に基づき、次年度にかけて代替研修を実施する予定である。4学年の海外フィールドワークにおいては、GIAHS地域の認定を受けているイフガオ州への訪問が困難であったことから、オンライン研修によって代替した。国内外のGIAHS地域について学び、意見交換を行ったことで、それぞれの地域が有する魅力や課題について気づき、発信する良い機会となった。来年度も内容を精選しつつ、より良い研修を企画していきたい。2年目の取り組みとなった5年生のEnglish Dayにおいては、国連大学より Evonne Yiu 氏を基調講演者に迎え、GIAHS地域について学びを深めた。グループごとの対話では、様々な背景を持つ他校生や留学生と英語で話し合う中で、様々な価値観や考え方に触れる機会となった。6年生の英語ディスカッションにおいては、課題研究をグラフィックレコーディング形式でALTに説明し、その内容とそこから生まれた問いについて自由に英語で話し合う活動を行った。課題研究の中で培ってきた知見が言語の壁を超えて伝わっていく楽しさと、もっと議論や学びを深めたいという歯がゆさの両方を感じる、生徒にとって集大成となる機会であった。

## 2-3-2 外国語教育の先進的な取組み

### ① English Day

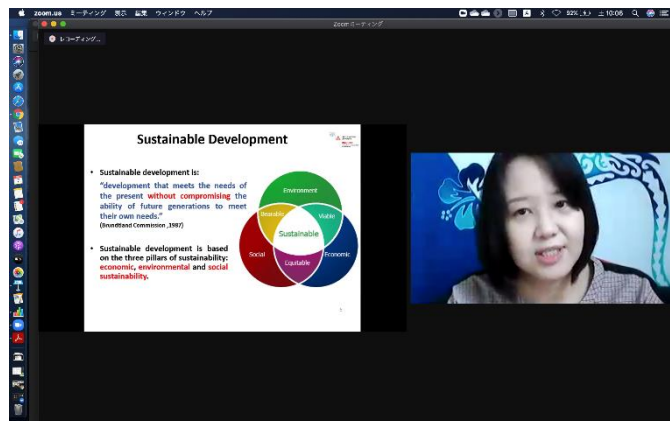
#### (1) 事業のねらい

宮崎大学国際連携センター所属の海外留学生をオンライン上に招待し、英語を活用したグループワークを実施することによって、「コミュニケーション英語力の向上」を図る。また、外部有識者（国連大学）による社会課題（GIAHS, SDGs等）に関する講義を行うことによって、「地域課題研究と紐づいた先進的な英語教育活動」を展開する。

#### (2) 事業の概要

[内容]

|     |   |
|-----|---|
| 期 日 | 令和2年11月7日（土）9:00-12:15  |
| 形 態 | ZOOM ミーティング   |
| 参加者 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校5年生 35名</li> <li>・高千穂高校2年生 8名</li> <li>・宮崎大学 海外留学生 9名</li> </ul>  |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国連大学 Evonne Yiu さん</li> <li>・本校職員（ALTを含む） 3名</li> <li>・高千穂高校職員 1名</li> </ul>  |
| 日 程 | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) オープニング</li> <li>(2) アイスブレイキング</li> <li>(3) 基調講演「GIAHSの意義と未来」<br/>国連大学 Evonne Yiu さん</li> <li>(4) グループ対話<br/>「What can we do to keep our society (GIAHS) sustainable?」</li> <li>(5) 全体共有</li> <li>(6) クロージング</li> </ol> |



基調講演（Evonne Yiu さん）の様子

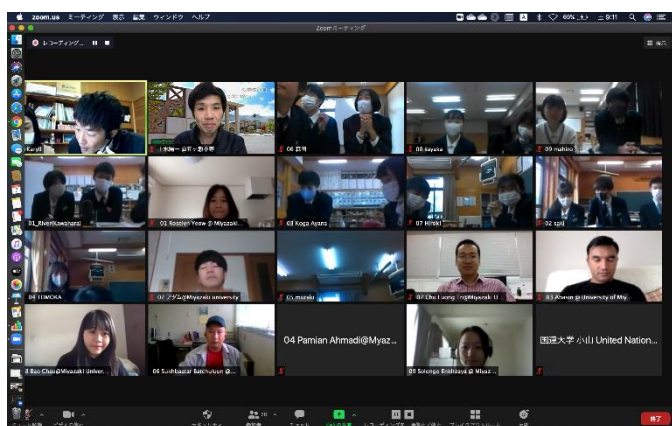


本校 英語科職員によるオンライン運営の様子

#### (3) 事業の成果と課題

昨年度は五ヶ瀬町に海外留学生を招待し、フィールドワークを交えながら英語活動に取り組むプログラムとして実施してきたが、今年度は直前まで宮崎大学国際連携センターと調整を重ねた末に、全てをオンラインで実施することになった。当初はリモートでの英語活動に不安を感じながら企画を進めていたが、当日は本校ALTが準備したアイスブレイキングによって対話の場が和み、グループ対話では「What can we do to keep our society (GIAHS) sustainable?」という難しいテーマに対して、意欲的に英語で討議する場面が随所に見られた。また、基調講演では Evonne Yiu さん（国連大学）より GIAHS の学術的な意義・価値について全て英語で説明があったが、メモをとりながら意欲的に理解しようとする生徒の姿が印象的であった。

実施にあたって、事前に英語科の授業においてパフォーマンス・テスト等を行ったが、今後も英語科との連携が不可欠だと考える。次年度に向けて、カリキュラム・マネジメントの視点からも、本プログラムを発展させていきたい。



宮崎大学 海外留学生との意見交換の様子

## 2-3-2 外国語教育の先進的な取組み

### ② GIAHS オンライン研修

#### (1) 事業のねらい

国外の世界農業遺産地域について学び、意見交換する機会として、昨年度からフィリピン・イフガオ州での海外フィールドワークを実施してきた。しかし、今年度は世界的な新型コロナウイルス感染拡大によって、国外への不要不急の渡航が全面的に禁止され、現地研修の実施が困難となった。

そこで、地球総合環境学研究所による支援・協力のもと、フィリピン・イフガオ州での人材育成活動を行っている中村浩二教授（金沢大学名誉教授）によるオンライン講義を実施するとともに、イフガオ州で取り扱ったワークショップを昨年度の研修参加生徒によるファシリテーションでオンライン実施することによって、それぞれの地域が有する魅力や課題を共有するとともに、双方向に発信する機会とした。

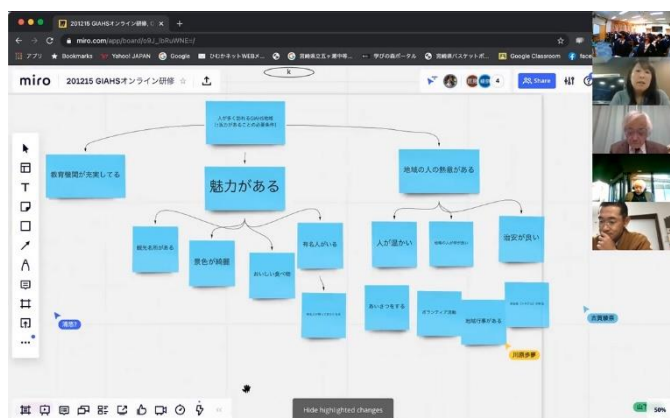
#### (2) 事業の概要

[内容]

|     |  |
|-----|--|
| 期 日 | 令和2年12月17日(金) 13:30-16:25  |
| 会 場 | ZOOM ミーティング  |
| 参加者 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校4年生 37名</li> <li>・本校5年生 6名</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校職員 6名</li> <li>・外部指導助言者 4名</li> </ul> <p>地球総合環境学研究所<br/>阿部 健一 教授<br/>嶋田 奈緒子 研究員</p> <p>金沢大学<br/>中村 浩二 名誉教授<br/>一社 Think Locally Act Globally<br/>小島 路生 研究員</p> |
| 日 程 | <p>(1) オープニング</p> <p>(2) 基調講演<br/>「GIAHSの魅力と価値とは？」</p> <p>(3) ワークショップ<br/>「GIAHSの未来を語ろう」<br/>※バックキャスト思考を用いたグループ活動を実施</p> <p>(4) クロージング</p>   |



外部指導助言者との意見交換の様子



オンラインツールを活用したワークショップの様子

#### (3) 事業の成果と課題

本来であればフィリピン・イフガオ州での現地フィールドワークを通して、ローカル×グローバルな経験を積む機会として計画している事業だが、コロナ禍においても「学びを止めない」という観点から、オンラインでの実施に踏み切ることになった。当然、リモートでは国際的な体験（肌感覚）までは十分に補填できなかったが、生徒の中に「いつかはフィリピン現地まで行ってみたい」という前向きな姿勢が見られた。また、昨年度の研修参加生徒をファシリテーター役に配置し、ワークショップを実施することによって、本事業が単年のイベントに終わることなく、学びの継続に繋げることが出来た点も大きな成果だったと考える。

次年度に向けて、今後も地球総合環境学研究所との協議を深め、リアルな体験とグローバルな視野の拡がりの「どちらも」大切にしながら、本事業をより魅力的なプログラムへと展開させていきたい。

## 2-3-2 外国語教育の先進的な取組み

### ③ グローバル探究研修

#### (1) 事業のねらい

実践探究1で取り組んだマイプロジェクトの報告を現地大学生に英語で行ったり、世界で活躍する日本人講師からの講義や助言を受けたりすることで、広い知識や論理的な思考、グローバルな視野を身につけ、後期課程でのToKや普遍探究活動、英語ディスカッション等の活動につなげる。

加えて、講師とのオンラインでの交流等を通して、英語でのコミュニケーション能力を身につけ、多様な価値観や国内外で日本人講師の活躍について学び、自ら考え行動できる態度を育む。

#### (2) 事業の概要

令和2年3月6日から同13日にかけて、グローバルフォレストピア探究研修をイギリス(ロンドン・オックスフォード)にて予定していたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の蔓延により、日本政府や県教育委員会の方針に従い、生徒の安全面を考慮し、実施の延期を決定した。本事業は、それらの研修を代替する形で、本校において令和2年11月7日にオンラインで実施された。一般社団法人Glocal Academyの岡本尚也氏のファシリテーションの下、日本人講師5名(オックスフォード大学、東京大学、東京外国語大学)、外国人講師1名(オックスフォード大学)から助言を受けつつ、マイプロジェクトの発表を行った。また、午後からのプログラムには横浜国立大学大学院国際社会科学研究院准教授の古川知志雄氏を招聘し、課題研究に関してのディスカッションを実施した。

#### (3) 事業の成果と課題

以下は、研修当日のスケジュールと発表時の様子である。

| 内容                       | 備考       |
|--------------------------|----------|
| 8:20<br>・生徒集合・出席確認       |          |
| 8:30~9:00<br>・マインドセット作り  |          |
| 9:00~9:15<br>・岡本先生・学生と対面 | Zoom: 全体 |

|   |  |
|---|--|
| (オンライン)<br>・研修の趣旨説明<br>⇒各教室へ移動            | ・タブレットは1班1台を確保<br>Zoom: ブレイクアウトセッション   |
| 9:20~10:00<br>・グループごとに自己紹介<br>※タブレットは1班1台 | ・グループごとにメンターは1~2名配置。それぞれ準備した内容を画面共有を行いながら発表、質疑応答。発表時間は質疑応答を入れて一人15分程度。終了後は、自由討論。休憩は各グループで実施。 |
| 10:10~11:25<br>発表①~④ 発表・質疑応答              | ・終了時刻に全員が発表および質疑応答が終わっているように、時間調整を行うようにする。   |
| 11:25~11:40<br>休憩(15分)                    | ・各部屋にて解散、昼食へ   |
| 11:40~12:10<br>発表者⑤⑥ 発表・質疑応答              | Zoom: 全体   |
| 12:20~13:30<br>・昼食休憩                      | ・自身の研究・これまでの進路について。  |
| 13:30~15:00<br>古川知志雄氏によるお話                | Zoom: 全体   |
| 14:00~14:30<br>振り返り                       | ・岡本先生による振り返り   |



オンラインを活用した英語プレゼンテーションの様子

感染症の蔓延というやむを得ない事情であったが、先進的な学際領域で学んでいる講師陣と、実際に研究内容についての意見を英語で交わすことは、大きな自信に繋がったようであった。定めれた時間を超過して熱心な議論が交わされたグループもあり、生徒たちもその熱量を画面越しに感じられたのではないだろうか。

課題としてが、事前の打ち合わせが不十分であったことで、直前までスケジュールが未確定な部分があった。来年度以降は研修の実施目的と手段を吟味し、講師との目線合わせを丁寧に行う必要があると考えられる。

## 2-3-2 外国語教育の先進的な取組み

### ④ 外国人留学生の受け入れ

#### (1) 事業のねらい

本校の教育方針の一つに「国際理解教育の推進」が掲げられており、これまでも全員参加の語学研修や海外研修を実施してきた。海外からの学生受け入れ実績もあるが、すべて短期的な交流を目的としたものであり、さらなる国際理解教育を推進していく意味でも、長期的・日常的な受け入れが必要である。

本校は全寮制であるため、海外からの留学生を長期的に受け入れることが、学校生活だけでなく、寮生活においても留学生と本校生徒との協働的な活動を促進する。留学生と本校生徒との日常的な交流を通して、生活・文化等の多様性への理解、コミュニケーション能力の向上など、様々な効果が期待される。本取組みを通じて、国際社会で主体的に生きる人間の育成、野性味あふれる地球市民の育成を図っていききたい。

#### (2) 事業の概要

フィリピンからの男子高校生1名を留学生として受け入れる予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、受け入れ中止となった。

##### ア 受け入れ体制の整備

学校及び寮での受け入れ体制として、受け入れ総括を教務部と海外交流検討委員会が担当し、学校生活全般の支援をおこなうスクールアドバイザー1名（受け入れ該当学年職員）と、ドミトリーアドバイザー1名（ハウスマスター）を設置した。校外の支援体制では、休業中の受け入れ家庭としての2世帯（メインホストファミリー1世帯）と、留学生に対して必要な助言やカウンセリング等をおこなう“リエゾン・パーソン”の1名を確保することができた。

##### イ 受け入れ予定留学生との交流

3月下旬に、海外交流検討委員会責任者が留学生本人とのオンライン面談を行い、留学するにあたっての留意事項や必需品等の説明、質問や心配な点等の対応をした。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、受け入れが延期となったことを受け、受け入れ該当学年である4年学年職員との顔合わせを5月

上旬にオンラインで行い、簡単な自己紹介等をおこなった。

6月中旬・7月中旬の2回に分けて、受け入れ該当学年である4年生の生徒達とオンラインでの交流会を実施した。交流会では、日本や五ヶ瀬町、本校学校行事等についての紹介を行った後、お互いの国の文化に関する質疑応答などを行い、異文化理解を深めることができた。

夏季休業明けの受け入れを予定していたが、今年度は受け入れ中止となった。

#### (3) 事業の成果と課題

##### 〈成果〉

- ・保護者や地域の方々の協力もあって、校内・校外含めて、受け入れ体制の組織を整備することができた。
- ・受け入れは中止となったが、オンラインでの交流会を実施できたことで、今後の生徒間での繋がりの契機を作ることができた。また、オンラインではあったものの、本校生徒の国際交流に向かう主体性や、異文化への理解、コミュニケーション能力の向上などを育むことができた。

##### 〈課題〉

- ・実際に外国人留学生の受け入れが始まってから、多くの課題が顕在化してくることが予想される。様々な状況に対応していくために、職員・生徒・保護者・外部人材等の連携をさらに強化していく必要がある。

## 第4節 土を耕す（教員の資質向上や関係機関の意識改革に関する事業）

2-4-1 職員研修

2-4-2 オンライン教育の推進に向けた取組

2-4-3 社会人向け教育プログラムの開発

第1節 風を読む（資質・能力の育成に関する事業）

第2節 葉を拓げる（コンソーシアム構築に関する事業）

第3節 幹を育てる（探究的な学び・類型毎の趣旨に関する事業）

**第4節 土を耕す（教員の資質向上や関係機関の意識改革に関する事業）**

第5節 森を見る（評価に関する事業）





## 2-4-1 職員研修

### (1) 事業のねらい

地域との協働による高等学校改革推進事業・グローバル型についての教員の共通理解や事業終了後の継続的な取組の実施に向けて、学び続ける「チーム学校」として共学共創の実現を目指す。また、本校の特色の一つでもある探究活動の在り方について議論を深め、探究的な学びのプロセスを整理する機会とする。

### (2) 事業の概要

本年度の年間計画に従って、以下のような職員研修を実施した。

#### ①「地域との協働による高校改革推進事業について」

(4/2)

地域との協働による高等学校改革推進事業〔グローバル型〕についての背景、本事業が目指す4つの軸、本事業に込めた思いについて、本事業の概要説明を行った。 ※新任者向けのみ実施

#### ②「グローバルフォレストピア探究について」

(4/6)

本年度のグローバルフォレストピア探究のねらいと探究活動の指導体制について、全職員で共通理解を図るため、選択希望制で実施した。主な研修内容は以下の通りである。

- ・グローバルフォレストピア探究のねらい～6カ年カリキュラムのイメージ共有～
- ・マイプロジェクトにおける伴走体制
- ・Theory of Knowledge の考え方
- ・課題研究活動の基本フレーム

#### ③「コロナ時代の新しい探究・協働様式について」

(5/8)

全国一斉休校措置を受けて、オンラインを活用した新しい探究・協働様式の提言を行った。

※新しい探究・協働様式の詳細は第1節を参照

#### ④「学習継続計画について」

(6/30)

廣田拓也さん（株式会社ソフィア）を外部アドバイザーとして、企業目線から事業継続計画の必要性

を学ぶとともに、オンライン×オフラインによる学習継続計画の素案を作成するための目線合わせを行った。

#### ⑤「学習継続計画について」

(12/22)

6月から作成を進めてきた「学習継続計画」について、半年間の取組を総括するとともに、廣田拓也さん（株式会社ソフィア）によるフィードバックを得る機会とした。

#### ⑥「普通科改革を見据えた新学科について」

(12/23)

本事業指定終了後の継続的な取組を念頭に置きながら、令和4年度に向けた新学科のカリキュラムに関する素案を提言した。主な提言内容は、以下の通りである。

- ・新学科「未来共創科」の設置
- ・学校設定科目（SDGs, STEAM等）の設置
- ・学校の枠組みを越えたカリキュラム開発（オンライン活用, 外部人材の登用等）

### (3) 事業の成果と課題

本年度は上記の①から⑥の研修を実施し、いずれも一定の成果を上げることができたと考える。それぞれの研修における成果は以下の通りである。

①②では、本年度より始まった事業や総合学習の流れを全職員で共有することによって、目的やねらいについて目線合わせを行うことができた。中でも、②は選択希望制で実施することによって、各教員の実態に合わせた研修を設定することが出来た。

③④⑤では、コロナ禍における新たな学びの在り方を提言する形での研修を実施した。年度当初は予定していなかった研修ではあったが、「誰一人取り残さない」「学びを止めない」という観点を全職員で共有する重要な機会となった。

⑥では、指定終了後を見据えた大胆なカリキュラム開発に関する提言となったが、多くの職員から賛同を得ることができたと感じている。次年度はスクール・ポリシーの設定や学校設定科目の詳細について、入念な準備に入っていきたいと考えている。

## 2-4-2 オンライン教育の推進に向けた取組み

### (1) 事業のねらい

本校は「感動と感性の教育」を教育方針の一つに掲げ、これまでは対面での対話を中心とした教育を重視してきた。コロナ禍の影響もあり、国のGIGAスクール構想や県のICT環境整備事業が前倒しで実施される中、ICTを積極的に活用することで、本校ならではの「感動と感性の教育」に新しいアイデアや深い対話の要素を加え、さらにアップデートすることを目指す。コロナ禍の影響による臨時休校中も「学びを止めない」をキーワードに、1～6年の全学年において、全教員が参画した上で、ICTを活用したオンライン授業・HRを実施し、生徒同士もしくは生徒と教師との対話を継続して行った。



全教員による休業期間中のオンライン授業・HR

### (2) 事業の概要

本事業を実施するにあたって、ICT機器を使うことそのものが目的化してしまわないように、生徒と教職員の双方にICT教育目標を設定し、研修等において目線合わせを行った上で実施することとした。

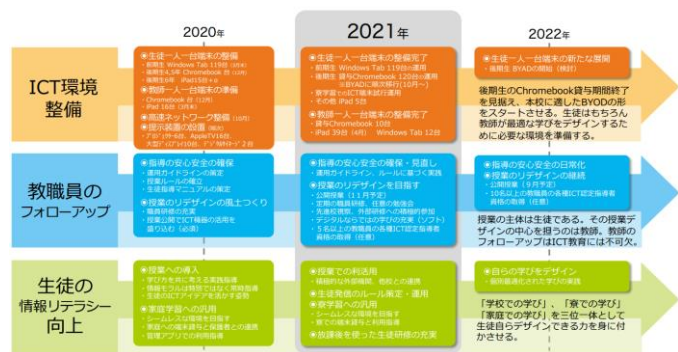
#### 本校のICT教育目標

**生徒** 自らの学びをデザインする

**教職員** 自らの授業（働き方）を『リデザイン』する



学びの森 ICT教育の三本柱



#### ICT教育の充実に向けた3カ年ロードマップ

本事業の実施にあたっては、「①ICT環境整備」「②教職員のフォローアップ」「③生徒の情報リテラシー向上」を、学びの森ICT教育の三本柱と位置付け、それぞれの項目について以後3カ年のロードマップを策定した。以下に、それぞれの項目別に今年度実施した内容の概要を記載する。

#### ①ICT環境整備（今年度分）

- Google Workspace for Education 生徒・教員1人1アカウント割り当て (R2.6～)
- 全学年で Google Classroom 運用開始 (R2.7～)
- 緊急回線整備によるインターネット大容量化 (R2.8～)
- 校内アクセスポイントの増設、高速化 (R2.8～)
- 一人一台端末実証事業による4・5年生へのChromebook貸与、家庭への持ち帰り (R2.12～)
- 普通教室への壁掛けプロジェクタ、大型液晶ディスプレイ、AppleTV、スクリーン整備 (R3.1～)
- 前期生一人一台 Windows 端末整備 (R3.3～)
- 教師用一人一台 iPad 端末整備 (R3.3～)
- Webカメラ、各種アダプタ、ケーブル等整備

#### ②教職員のフォローアップ

##### ア 指導の安心安全の確保

本校独自のICT運用ガイドラインを策定する過程において、本校におけるICT教育の定義や、授業における運用ルールについて、教職員間で目線合わせを行った。

##### イ 授業のリデザインの風土づくり

○授業研修週間 (R2.10/5～10/10) に全教員でICTを活用した授業&OJTを実施

〈テーマを設定する上で意識した3つの視点〉

- 身につけさせたい5つの力 (2-1-2参照) を意識したICT活用
- 知識、技能の習得を目指したICT活用
- 思考力、判断力、表現力の育成を目指したICT活用

〈授業テーマ例〉

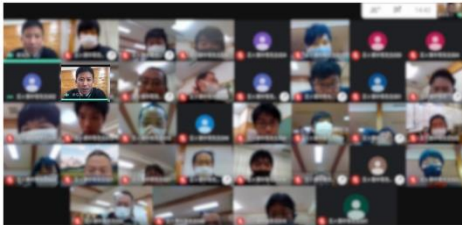
- ・PDA 即興型英語ディベートにおける ICT の有効活用法に関する模索（3年英語）
- ・「オンデマンド」を利用した反転学習（5年化学）
- ・「ロイポート」を利用した数学演習（5年数学） 等

○ICTに関わる職員研修, 自主研修の実施(抜粋)

- ・「After コロナを見据えたオンライン教育」(R2.5)
- ・「情報モラル研修」(R2.9)
- ・「一人一台 Chromebook の活用法」(R2.12)
- ・「Jamboard による協働的な学び」(R2.12)
- ・「壁掛けプロジェクトの効果的な活用法」(R3.1)

ICT研修の合言葉

「まずは自分たちが使ってみる」  
 「みんなで使えば怖くない」



教職員一人一台端末による職員研修・自主研修



○本校における「ICT活用のステップ」策定

下図に示すように、ICTの活用場面を4つのステップに位置付け、「できることから」「できる人から」をキーワードに、職員研修の成果も踏まえながら、全教員でICT活用に取り組んだ。

ほとんどの教員がSTEP1・2に位置付けられる授業は実施できており、中にはSTEP4に位置付けられる「協働制作」や「学校の壁を越えた学習」を実施している場面もみられた。

本校でのICT活用のステップ

※ここでは授業や家庭学習を指す。



佐土瀬(2020)「ICTを活用した教育の推進に関する懇談会」報告書(中間まとめ)、文部科学省、2014年をもとに作成



外部講師のオンライン講義・講演



五ヶ瀬中等×飯野高校(合同探究活動)

③生徒の情報リテラシー向上

4・5年生へのChromebook貸与時には、ICT機器を利用する上での最低限のルールを掲載した「学びの森 ICT活用リーフレット ver.1」を配布し、研修会の中で、前述のICT教育目標等の確認とルールについての目線合わせを行った。



学びの森 ICT活用リーフレット ver.1

情報モラルについては常時指導することとし、生徒達の自由な発想・アイデアによるICT活用を促した結果、学校の授業内における活用のみならず、委員会活動・部活動・寮運営・家庭学習等、様々な場面で積極的にICTを活用する場面がみられた。



学校での学び



寮での学び

帰省した先(家庭)での学び



(3) 事業の成果と課題

急激に社会状況が変化し、次々と新しいICT環境が整備された1年間であったが、年度当初に「学びを止めない」「できることから」「できる人から」のキーワードを全教員間で共有できていたことが、今年度のICTを活用した教育の充実に繋がった。

一方で、あまりにも急速なICT環境の変化は、本校が開校当初から大切にしてきた理念や精神を置き去りにしてしまう危険性を孕んでいるため、今後ICTの運用のあり方をブラッシュアップする際には、全教員ならびに全生徒間でその都度、そのねらいや目的を再確認し合う必要がある。

直近では、一人一台Chromebook実証事業終了後の、後期生におけるBYOD導入モデル調査研究のあり方や、寮におけるICT活用方法の模索、県全体のICT推進モデル校としての取組み、などが課題である。特に今後BYOD(もしくはBYAD)を導入する場合には、保護者の理解が極めて肝要となるため、保護者参観等でICT活用の有用性を体験できるような機会を設けるなど、丹念な説明が必要になる。

## 2-4-3 社会人向け教育プログラムの開発

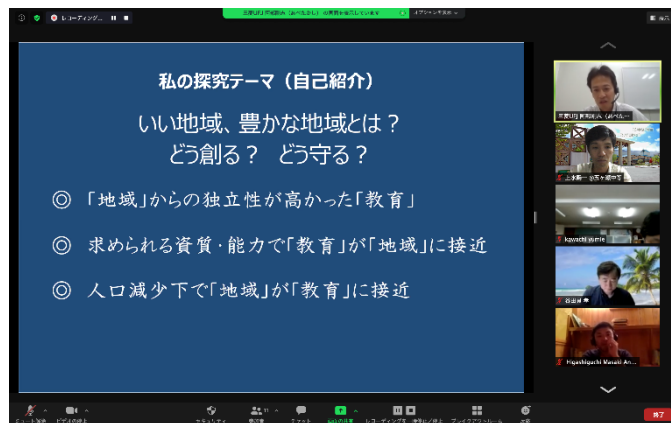
### (1) 事業のねらい

文部科学省が掲げる「高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等と協働してコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を推進する」ためには、ファシリテーション等の教育スキルだけでなく、地域（みやざき）の良さや魅力を熟知し、課題意識や貢献意識を高くもった人材育成が必要である。そこで、将来的に地域協働学習実施支援員として活躍できる地域人材や、その資質を有する教育関係者を養成するための社会人向け教育プログラム（みやざき教育魅力化コーディネーター養成コース）を開発することを目指す。

### (2) 事業の概要

今年度は島根大学・地域魅力化センターが実施する履修証明プログラムを参考に、6月から2月にかけて、ウェブ会議システムを活用したオンライン講義を実施した。取組みの概要は次の通りである。

| 形式    | 各回 90 分で実施（講義＋演習）  |
|-------|--|
| 受講者   | ○県内高校教諭 15 名<br>○県内大学教授 1 名<br>○県内教育関係者 2 名<br>○県外自治体関係者 1 名 |
| 第 1 回 | 「オリエンテーション」  |
| 第 2 回 | 「未来の教育を共に創る」<br>（一社）地域・教育魅力化プラットフォーム 岩本 悠                    |
| 第 3 回 | 「With コロナの新しい探究様式」<br>（一財）こゆ地域づくり推進機構 中山 隆                   |
| 第 4 回 | 「豊かな学びの土壌とは何か」<br>三菱UFJリサーチ&コンサルティング 阿部 剛志                   |
| 第 5 回 | 「ワークショップ・デザイン」<br>五ヶ瀬中等教育学校 上水 陽一                            |
| 第 6 回 | 「地域と学校を繋ぐコーディネート」<br>NPO 法人カタリバ 長谷川 勇志                       |
| 第 7 回 | 「探究×進路はどこで交わるか」<br>岩手県立盛岡第一高校 梨子田 喬<br>NPO 法人カタリバ 菅野 祐太      |
| 第 8 回 | 「共学共創する学びの実現」<br>（一社）地域・教育魅力化プラットフォーム 岩本 悠                   |



講師によるオンライン講義の様子



参加者による意見交換の様子

### (3) 事業の成果と課題

昨年度はパイロット事業として実践した取組みみであったが、今年度は県内外から 19 名の参加申込みをいただき、年間を通して 8 回実施することが出来た。また、11 月に一般財団法人こゆ地域づくり推進機構が主催した「MIYAZAKI MANABI Fes 2020」では、県内外から参加した多くの教育関係者向けに本コースでの学びの成果を発信する機会を得られたことは、大きな成果の 1 つといえる。

2 カ年を通して、「共に学ぶ」ネットワークを構築することが出来たと感じている。今後は「共に創る」チームとして、学び手が自ら主体的に学びをデザインできる場に本コースを高めていく必要があるだろう。また、本事業のカリキュラム・アドバイザーである岩本悠氏（地域・魅力化プラットフォーム）をはじめ、管理機関や県内大学・教育関係機関の支援を受けながら、本事業指定終了後の自走化に向けた取組へと移行する準備を進めていきたい。

## 第5節 森を見る（評価に関する事業）

2-5-1 形成的アセスメントに関する取組み

2-5-2 高校魅力化評価システムの分析結果

2-5-3 事業成果の発信に関する取組み

第1節 風を読む（資質・能力の育成に関する事業）

第2節 葉を拓げる（コンソーシアム構築に関する事業）

第3節 幹を育てる（探究的な学び・類型毎の趣旨に関する事業）

第4節 土を耕す（教員の資質向上や関係機関の意識改革に関する事業）

第5節 森を見る（評価に関する事業）



## 2-5-1 形成的アセスメントに関する取組み

### (1) 事業のねらい

本事業は、本校のあらゆる教育活動を通じて生徒に身につけさせたい5つの力(関連づける力、問う力、見る力、試みる力、繋がる力)の獲得状況を質的に評価することを目的とする。生徒自身の自己評価と、それらを基にした教員のフィードバックを通じて、生徒自身が自らの変容を実感できることが望ましい。評価方法として、Young and Wilson(1995)にて提示されているICEモデルを基に、独自の評価基準を設定した。ICEモデルとは、5つの力に対して「I (Ideas):知る」「C (Connections):つなげる」「E (Extensions):応用する」の3段階で評価基準を設定するもので、それぞれ学びの深まりをイメージしており、量的な評価ではなく質的な評価に特化した内容であることが特徴である。それによって、生徒は自らの変容や成長について主観的な記述が可能になり、また教師は生徒の評価を通して、支援の改善に繋げることが可能になると考えられる。このような形成的アセスメントの構築は、グローバルフォレストピア探究のみならず、学校全体の授業改善や教師、生徒の意識改革を促すことに繋がる。

### (2) 事業の概要

以下、本事業における「ICEモデルを基にしたアンケート」のことを「ICE-Qs(アイス・キューズ)」と呼称する。実施に際して、①学びの場面において「学習者が成長過程のどこにいるのか?」ということの把握を目的とすること ②既定の到達目標・数値との比較ではなく、自己評価を通じて「その生徒は以前と比べ、どれだけ前進したか?」ということを明らかにすること ③ICE-Qsによって明らかになった生徒の変容について、学年等で面談の材料に繋げてもらうこと ④回収後、PDF化して学校共通フォルダへ保存し、誰もが参照可能な形にすることの4点を確認した。実際の実施手順については、アンケート本体と別添資料を参照されたい。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の蔓延により、予定していた実施日においてICE-Qsを実施することが出来なかったものの、本年に於いては、年度開始時の4月と年度末の3月に、それぞれ紙面とGoogleフォームを用いて、後期生を対象に実施した。

### (3) 事業の成果と課題

以下、アンケートより得られた結果の分析である。自由記述部の質的分析には、Userlocal社のAIテキストマイニングツールを使用した。

回答結果より、多くの評価項目において、4年生から6年生にかけてIdea⇒Connection⇒Extensionの割合が増加していることが見て取れる。

その中でも、上記に当てはまらない特徴的な変化例を以下に示す。まず、「評価の対象」の視点に立ち、横断的な視点から検証を行った。

4年生の回答からは、「教科」「寮生活」「学校行事」のいずれにおいても「C」が高い割合を示すことが多い一方で、「課外活動」は到達度が低い「I」評価が多い傾向にあった。本年度は対外的活動の多くが中止になったこともあり、低めの自己評価に帰結したと考えられる。しかし、同様の傾向が5年次生にも見られるものの、同「課外活動」における「試みる力」のみ、「C」が「I」の割合を逆転している。そこで、当該回答の自由記述コメントを※階層的クラスタリング(Hierarchical Clustering)の手法を用いて分析すると、「試す」「計画的」「目標」などのキーワードと共起して使用される傾向にあった。(図1~3.参照)このことから、同じ状況を経験した両学年であっても、5年生の方がより「ある程度の見通しを持って、周囲の力を借りながら行動することができる」力を身につけている可能性が示唆された。この差がどのような要因や取り組みに起因するか、学年間での検討課題として取り上げる必要があると考えられる。

次に、ICE-Qsの「5つの力」の視点に立ち、縦貫的な視点から検証を試みる。

先述したように、全体的な回答からは、4~6年次にかけて、「I」や「C」の回答が減少し、それぞれ「C」や「E」などのより高い自己評価に変化している傾向が読み取れる。しかしながら、「問う力」「試みる力」そして「関連づける力」における「学校行事」の評価は、いずれも6年次において「C」が最も高い割合を示しており、他項目と比較して「E」評価の割合が伸長していない。そこで、この結果に対する質的評価の妥当性を検証するために、前述の自由記述コメントに対して、TF-IDF法を用いた単語出現頻度分析を実施した。(図4~6.参照)この結果から示唆されることとして、5年次、6年次より「関連づける」「対話」「つながる」「つなげる」などの表現が多く使用されており、元データである自由記述コ

メントの該当部分を検証しても、前向きな文脈において使用されていることが示唆された。問う力・試みる力・関連づける力のそれぞれの Connection の項目は「体験や経験を通して生まれた問いについて、自分のことばで周りの人と対話することができる」「ある程度の見通しを持って、周囲の力を借りながら行動することができる」「得られた知識や経験について、ほかの分野においても使ってみよう และสามารถすることができる」であり、それらのキーワードと重複する部分も多い。このことから、5、6両学年において、達成度はある程度妥当な自己評価が下されていると考えられる。しかしながら、前述のように、問う力・試みる力・関連づける力のそれぞれの Extension の項目（「周囲の人との対話や、新しい体験・経験をくり返すことで、改めて『なぜ? どうやって?』を問い直すことができる」「失敗したことを修正しながら、目標に向かってくり返し行動することができる」「ひとつの知識や経験で終わることなく、複数の知識や経験をつないで行動することができる」）に達していないことから、6年次に「E」評価に達していた他項目の「教科」「寮生活」と比べ、生徒の学びの状況にまだ伸びしろが存在することの示唆とも考えられる。本校の学校行事の運営主体は5年生であり、6年次には行事運営の一線から大多数の生徒は退くことを考慮に入れても、教科やグローバルフォレストピア探究活動、寮生活などで学んだ内容を、学校行事にも応用することができるような働きかけを行っていく必要がある。

以上のことから、①4～6年生にかけて概ね Idea ⇒ Connection ⇒ Extension の割合が増加しており、学びの成果は順当に生徒の自己評価となって表出している一方で、②コロナ禍によって同じ状況を経験した両学年であっても、4年生よりも5年生の方がより「ある程度の見通しを持って、周囲の力を借りながら行動することができる」力を身につけていること、および③「問う力」「試みる力」「関連づける力」における「学校行事」においては、5年、6年次においても「C」が最も高い割合を示しており、他項目と比較して「E」評価の割合が伸長していないことが示唆された。これ以外にも、紙面の都合上言及できなかったその他の評価の視点や、生徒個人レベルでのフィードバックなどを含め、職員への情報提供を行い、学びの達成度発信に努めていきたい。

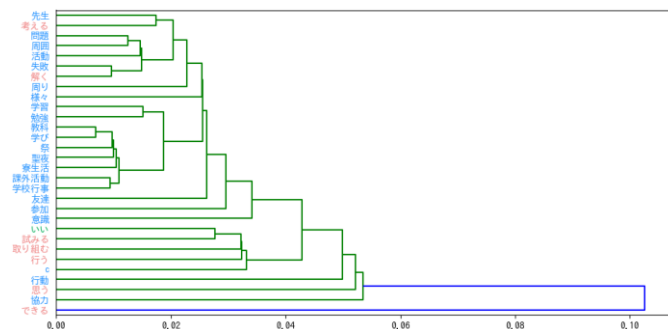


図1. 4年生の階層的クラスタリング分析結果

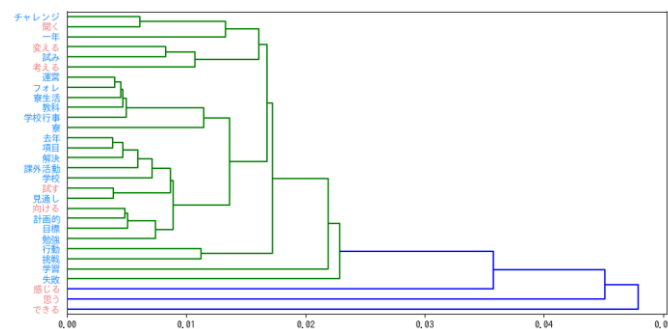


図2. 5年生の階層的クラスタリング分析結果

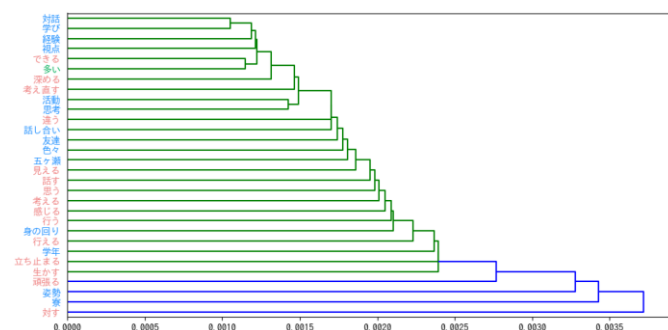


図3. 6年生の階層的クラスタリング分析結果

(参考)

※出現傾向が似た単語を、似ているものから順にクラスタ (=グループ) としてまとめていくプロセスを示したものが階層的クラスタリングです (中略) 似たものは近く (左側) で枝分かれし、似ていないものは遠く (右側) で枝分かれしています。これにより、出現傾向が似た単語のまとまりを、階層的に読み取ることができます。

クラスタをまとめるときの各単語・クラスタ間の近さ (出現傾向の類似度) は、クラスタをまとめる縦線の位置が左にあるほど近く、右にあるほど遠くなっており、線の結合通りに順番にまとめられます。

**出典**

[https://textmining.userlocal.jp/questions#data\\_q6](https://textmining.userlocal.jp/questions#data_q6)

添付資料

| 名詞   | スコア    | 出現頻度 | 動詞    | スコア   | 出現頻度 |
|------|--------|------|-------|-------|------|
| 課外活動 | 490.29 | 54   | できる   | 42.67 | 190  |
| 家庭生活 | 368.58 | 52   | 関連付ける | 33.85 | 8    |
| 教科   | 264.44 | 70   | 取り組める | 18.77 | 5    |
| 学校行事 | 208.61 | 38   | 取り組む  | 16.43 | 10   |
| 学び   | 19.09  | 22   | つなげる  | 10.67 | 6    |
| フォレ  | 77.26  | 12   | 結びつける | 8.37  | 4    |
| 学習   | 70.01  | 33   | 解く    | 8.35  | 9    |
| 塾校   | 65.88  | 15   | 考える   | 8.28  | 55   |
| 課題研究 | 66.69  | 7    | 捉える   | 7.14  | 9    |
| 寮    | 66.11  | 20   | 話し合う  | 6.28  | 6    |
| 校外   | 61.34  | 6    | 深める   | 6.07  | 5    |
| 行事   | 60.59  | 16   | 活かす   | 4.96  | 6    |
| 祭    | 60.47  | 28   | 開く    | 4.62  | 9    |
| i    | 58.53  | 22   | 関わる   | 4.19  | 12   |
| 委員会  | 55.94  | 12   | つなげる  | 3.80  | 6    |
| e    | 43.35  | 14   | 比べる   | 2.16  | 9    |
| 様々   | 40.03  | 19   | 習う    | 2.03  | 4    |
| 行動   | 21.52  | 32   | 思う    | 1.97  | 59   |
| 知識   | 16.54  | 22   | 学ぶ    | 1.80  | 6    |
| 間    | 14.92  | 12   | 至る    | 0.96  | 4    |

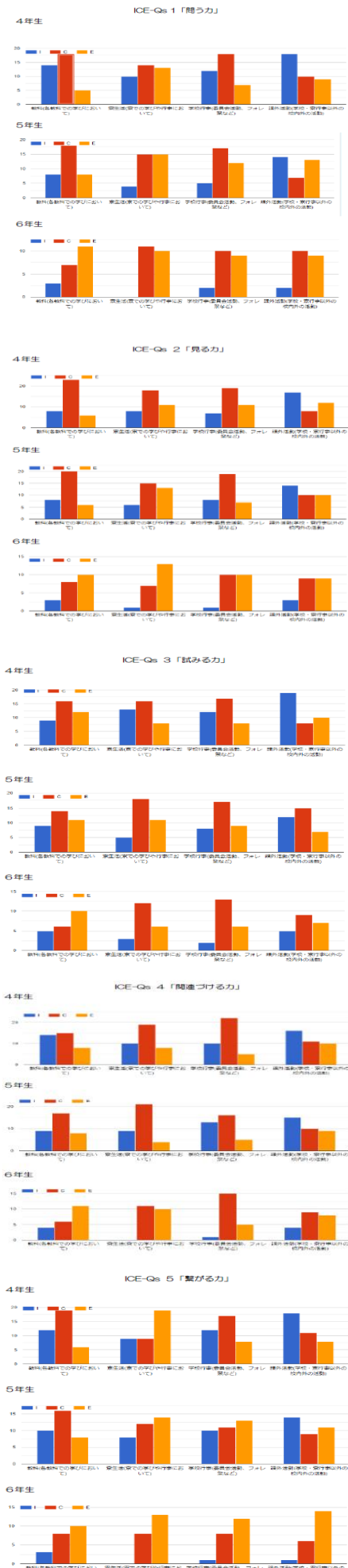
図 4. 単語出現頻度(上位 20 位・4 年生)

| 名詞   | スコア    | 出現頻度 | 動詞    | スコア   | 出現頻度 |
|------|--------|------|-------|-------|------|
| 課外活動 | 237.36 | 29   | 関連付ける | 33.85 | 8    |
| 家庭生活 | 128.95 | 22   | 取り組める | 24.00 | 6    |
| 学校行事 | 128.88 | 26   | できる   | 18.55 | 127  |
| 教科   | 126.22 | 41   | 築ける   | 10.43 | 4    |
| 学習   | 111.51 | 45   | 関わる   | 6.37  | 15   |
| 寮    | 99.54  | 39   | 考える   | 5.60  | 45   |
| フォレ  | 77.26  | 12   | つなげる  | 5.02  | 7    |
| 5年生  | 81.47  | 8    | 活かす   | 4.96  | 6    |
| 課題研究 | 80.16  | 6    | つなげる  | 3.44  | 3    |
| 学び   | 65.94  | 10   | 感じる   | 2.81  | 23   |
| 分野   | 60.35  | 13   | 学ぶ    | 2.41  | 7    |
| 委員会  | 58.61  | 10   | 取り組む  | 2.13  | 3    |
| 客観   | 48.69  | 8    | 思う    | 1.53  | 52   |
| 運営   | 48.52  | 27   | 向き合う  | 1.20  | 3    |
| 横断   | 47.36  | 11   | 向ける   | 1.02  | 6    |
| 横断的  | 54.43  | 12   | 比べる   | 0.98  | 6    |
| 対話   | 10.96  | 6    | 捉える   | 0.95  | 3    |
| 客観的  | 10.24  | 6    | 増える   | 0.66  | 9    |
| 学年   | 10.03  | 9    | 伸びる   | 0.49  | 4    |
| 活動   | 8.99   | 20   | 助ける   | 0.42  | 4    |

図 5. 単語出現頻度(上位 20 位・5 年生)

| 名詞   | スコア   | 出現頻度 | 動詞    | スコア  | 出現頻度 |
|------|-------|------|-------|------|------|
| 五ヶ瀬  | 29.32 | 4    | 関連付ける | 4.89 | 2    |
| 物事   | 8.00  | 7    | 関連づける | 3.72 | 1    |
| 対話   | 5.73  | 4    | 生かす   | 2.48 | 4    |
| 探究   | 4.82  | 2    | 結びつける | 2.06 | 1    |
| 学び   | 3.99  | 3    | 試みる   | 1.45 | 2    |
| 6年生  | 3.40  | 2    | 学べる   | 1.45 | 2    |
| 文献   | 3.24  | 2    | 深める   | 1.22 | 2    |
| 学校生活 | 3.02  | 2    | とどろす  | 1.16 | 1    |
| 受験勉強 | 2.76  | 3    | 行える   | 1.01 | 1    |
| 6年間  | 2.72  | 2    | 開く    | 1.00 | 4    |
| 寮    | 2.34  | 4    | できる   | 0.99 | 28   |
| 論文   | 0.91  | 3    | 向かえる  | 0.94 | 1    |
| 身    | 0.66  | 8    | 生かせる  | 0.92 | 1    |
| 経験   | 0.42  | 8    | 結びつける | 0.86 | 1    |
| 多く   | 0.33  | 5    | やり選げる | 0.78 | 1    |
| 研究   | 0.08  | 4    | 書える   | 0.70 | 1    |
| 視点   | 0.93  | 3    | 補強れる  | 0.60 | 4    |
| 書き方  | 0.89  | 2    | 見据える  | 0.57 | 1    |
| 様々   | 0.87  | 3    | 考え直す  | 0.48 | 1    |
| これら  | 0.86  | 2    | 学ぶ    | 0.47 | 3    |

図 6. 単語出現頻度(上位 20 位・6 年生)





## 2-5-2 高校魅力化評価システムの分析結果

### (1) 事業のねらい

本事業で取り組む諸活動に対する評価・分析手法として、三菱UFJコンサルティングが提供する「高校魅力化評価システム」を活用することによって、他地域（指定校・アソシエイト校）と定量的な比較・検証し、自校の強みと弱みに基づきながら次年度以降の事業計画の見直しを行う。

### (2) 事業の概要

高校魅力化評価システムの実施概要は、以下の通りである。

|     |                  |      |  |
|-----|------------------|------|--|
| ○対象 | [生徒]             |      |  |
|     | 後期課程 4年～6年       | 100名 |  |
|     | [大人]             |      |  |
|     | コンソーシアム構成員       | 4名   |  |
|     | 運営指導委員           | 6名   |  |
|     | 本校教員             | 8名   |  |
|     | 本校保護者            | 5名   |  |
| ○時期 | 令和2年8月           |      |  |
| ○方法 | アンケート形式（ウェブ上で回答） |      |  |
| ○観点 | 以下の4観点について数値化する  |      |  |
|     | ア 生徒の学習活動の機会     |      |  |
|     | イ 地域の学習環境        |      |  |
|     | ウ 生徒の自己能力認識      |      |  |
|     | エ 生徒の行動実績        |      |  |

### (3) 事業の成果と課題

今年度の調査結果について、三菱UFJコンサルティング担当者からフィードバックされた内容は、以下の通りである。なお、調査結果の詳細については、次ページをご参照いただきたい。

- ・4つの観点全てにおいて、他指定校と比較しても大変高い数値が得られている。これは、本校の教育活動（総合的な探究の時間、少人数指導、全寮制）が相補的かつ有機的に働いている成果である。
- ・観点「ア 学習活動の機会（明示的なカリキュラム）」において、他地域と比較しても大変高い数値が得られていることから、本校が位置する GIAHS 地域には豊かな教育資源と環境を有していることがわかる。中でも、質問項目『地域の課題の解

決方法について考える機会が多い』と回答した生徒が 93.0%を占めている点は特筆すべきである。

- ・観点「イ 地域の学習環境（非明示的なカリキュラム）」において、質問項目『目標や当事者意識を持って挑戦している人がいる』と回答した生徒が 96.0%と大変多いことから、本地域の「学びの土壌（学習環境）」の豊かさを確認することができる。
- ・観点「ウ 生徒の自己能力認識（資質・能力の主観的認識）」では、自己肯定感・有用感や行動力が他地域よりも低い結果が得られた。これは、コロナ禍において、今年度の各種活動が大幅に制限されたことを受けて、本校の強みである「リアルな（真正性のある）学び」の機会が減少したことが影響しているのではないかと考えられる。また、寮生活においても生活様式の変化が求められたこともあり、家庭を離れて生活する上でのストレスや不自由さを実感した結果と読み取ることもできるだろう。一方で、『18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う』と回答した割合が 96.0%を占めているなど、社会参画意識の高さは他地域と比較しても大変高いことが分かる。
- ・観点「エ 生徒の行動実績（資質・能力の発揮）」について、全ての観点で昨年度よりも低い結果が得られた。しかし、この傾向は他地域も同様であり、やはりコロナ禍で活動が制限された影響は否めないといえる。しかし、このような状況下でも今年度はオンラインを積極的に活用した取組みを推進し、多くの生徒が県内外で開催された各種コンテストやセミナー、意見交換会に参加することができた。本調査を実施した時期が8月だったため、次年度の調査では行動実績の変化が見られることを期待したい。

最後に、「高校魅力化評価システム」は次年度以降も継続して実施し、学年を定点観測しながら、本事業の取組みをブラッシュアップするための根拠資料として、有効に活用していきたい。

# Portfolio of sustainable education and community

## 高校魅力化評価システム 組織診断ポートフォリオ

高校名 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

年度 2020年度

|      |       |          |     |    |       |    |     |      |     |    |     |   |
|------|-------|----------|-----|----|-------|----|-----|------|-----|----|-----|---|
| 回答者数 | 生徒・学生 | 100 (内訳) | 1年生 | 35 | 2年生   | 34 | 3年生 | 31   | 4年生 | 0  | 5年生 | 0 |
|      | (昨年度) | 100 (内訳) | 1年生 | 33 | 2年生   | 29 | 3年生 | 38   | 4年生 | 0  | 5年生 | 0 |
|      | 大人    | 23 (内訳)  | 教職員 | 8  | (昨年度) | 大人 | 25  | (内訳) | 教職員 | 16 |     |   |

【MEMO】

教育目標、育てたい生徒像など

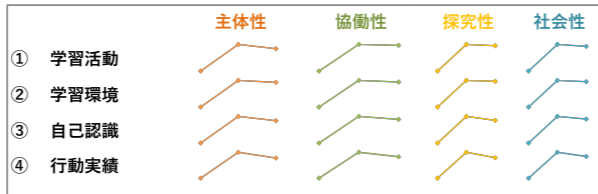
## Summary 総括表

### ■今回の結果 (まとめ)

|           | 主体性 | 協働性 | 探究性 | 社会性 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|
| ① 学習活動    | 3   | 4   | 4   | 4   |
| ② 学習環境    | 4   | 4   | 4   | 4   |
| ③ 生徒の自己認識 | 2   | 3   | 2   | 3   |
| ④ 生徒の行動実績 | 2   | 3   | 2   | 1   |

※肯定的回答割合が50%未満=1,50~65%=2,65%~80%=3,80%以上=4

### ■前回、前々回からの肯定的回答割合の推移 (まとめ)



※左から前々回、前回、今回。非受検回もグラフに表示されるため読み取り注意。

## How to read 結果の読み取り方

このポートフォリオでは、以下の5側面、4領域、3軸により、高校と地域の学びの「いま」と「変化」を読み取ることができます。

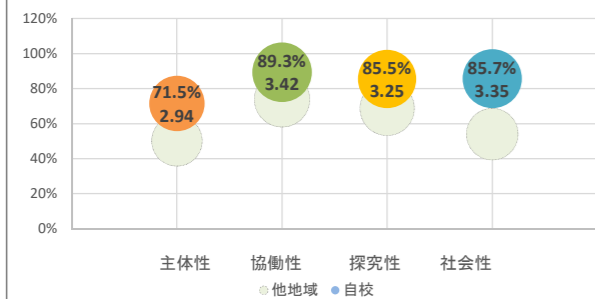
- 5つの側面を → 各校・地域の状態を、「①学習活動」「②学習環境」「③生徒の自己能力認識」「④生徒の行動実績」「⑤満足度」の5つから把握しています。
- 4つの領域から → 各設問を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力に関する領域に分類しています。
- 3つの軸で → 上記のデータを「時間軸 (前年度からの伸び)」「学年軸 (学年による違い)」「地域軸 (他地域との比較)」の3つの軸で整理しています。

結果に出てくる数字や言葉は次の意味を表しています。

- 【割合 (%)】 → 各項目で「4. あてはまる」「3. どちらかといえばあてはまる」という肯定的回答をした割合
- 【平均】 → 「あてはまらない=1」～「あてはまる=4」の回答の平均値
- 【他地域】 → 同じ機会に調査を実施した他校の回答の平均値
- 【回答上昇者の割合】 → (個人IDで紐づけを行い、複数回調査を実施した場合に表示) 前年と比べて、各領域の回答平均値が上がった回答者の、全回答者に占める割合

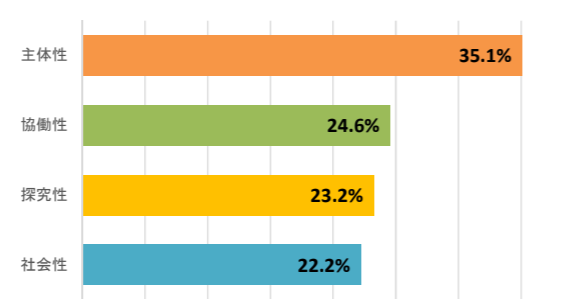
### ①学習活動 (明示的なカリキュラム)

#### ■今回の結果



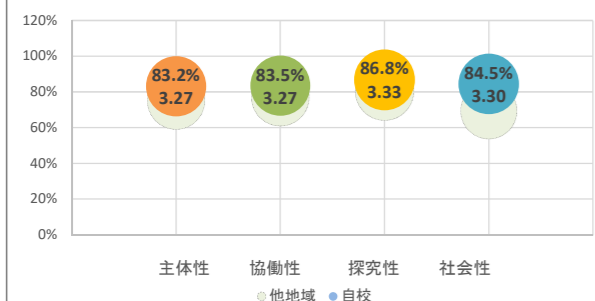
※上段の数値 (%) : 縦軸) が肯定的回答割合、下段の数値が平均値

#### ■前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)

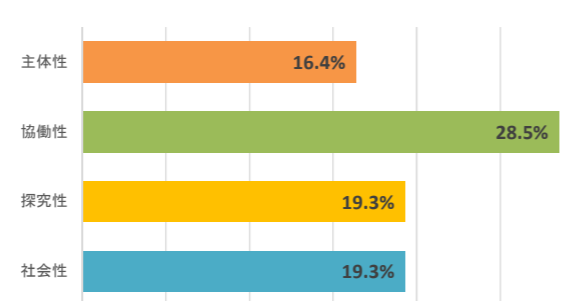


### ②学習環境 (学びの土壌：非明示的なカリキュラム)

#### ■今回の結果



#### ■前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)

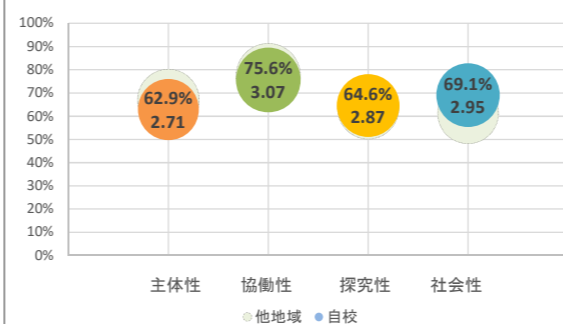


#### 【学習活動】【学習環境】読み取り・検討の視点

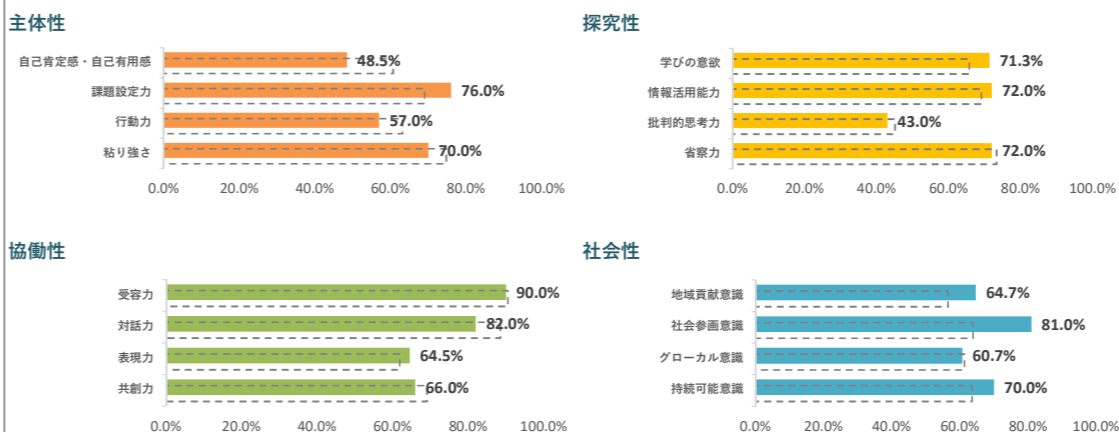
- ・ 自校の強みや課題、それを増進/克服するための、協働のあり方は?
- ・ 普段から意識して取り組んでいる活動の機会や環境づくりは? その成果は出ていそうか?
- ・ 協働を支えるコーディネート機能として、どのような役割が必要か?

### ③生徒の自己認識 (資質・能力の主観的認識)

#### ■今回の結果



#### ■今回の結果 (詳細)

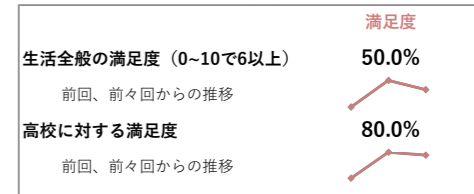


※点線は他地域における肯定的回答割合

#### 【生徒の自己認識】読み取り・検討の視点

- ・ 普段から意識している、育てたい生徒像や、身につけさせたい力に関する指標の結果は?
- ・ 前回からの変化は? その要因として、何が考えられそうか? (学習活動、学習環境と関連付けて)
- ・ 今後、意識して伸ばしていきたいと考える力は? そのために必要な「次の一手」は?

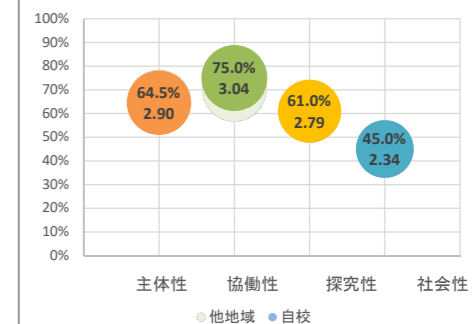
### ■総合的な生徒の満足度 (⑤)



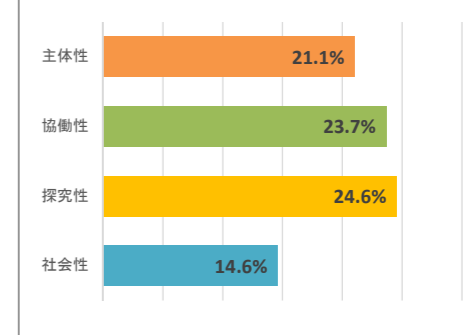
※非受検回もグラフに表示されるため読み取り注意。

### ④生徒の行動実績 (資質・能力の発揮)

#### ■今回の結果



#### ■前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)



#### 【生徒の行動実績】読み取り・検討の視点

- ・ 生徒に期待する具体的な行動は?
- ・ 生徒の自己認識との関連は?
- ・ 具体的な行動を促すような、学習活動や学習環境づくりはできているか?

## 2-5-3 事業成果の発信に関する取組み

### (1) 事業のねらい

③関係資料3-1にも掲載されているように、本事業に関わる各種大会において、本校生徒は優秀な成績を収めているが、これまでその成果の報告は、学校ホームページの「表彰の記録」ページにおいて、本人の受賞写真とともに紹介される程度に留まっていた。また、今年度はコロナ禍の影響により、各種大会が中止もしくは規模縮小される例も多く、生徒達の探究活動の成果物を広く一般に見ていただき、フィードバックを受ける機会が減少した。そこで、本校独自の「学びの森探究ポータルサイト」を開設し、生徒の発表動画やスライド・ポスター等の成果物そのものを掲載することで、本事業の成果を広く発信するとともに、生徒達の探究意欲向上につなげることを目指した。

### (2) 事業の概要

全校生徒・保護者から成果物の掲載に関わる承諾書を提出していただいた上で、令和2年10月に「学びの森探究ポータルサイト」を公開した。

### ①「学びの森探究ポータルサイト」の概要

URL : <https://sites.google.com/g.miyazaki-c.ed.jp/gokase/>

(学校 HP よりリンク)



- 内容 : ・各学年の探究成果物  
・各種コンテスト、発表会等の受賞歴  
・学びの森における先進的な取組み事例



学校を核とした「共学共創コミュニティ (GIAHS Co-Learning Community)」の形成  
Society 5.0 を GIAHS 地域から分厚く支える「野性味あふれる地球市民 (Global citizen)」の育成



本ポータルサイトでは「グローバルフォレストピア探究 (GF探究)」授業等において、本校生徒が作成した成果物 (ポスター・論文・発表動画・スライド等) や、学びの森における先進的な取組み事例を掲載しています。



「学びの森探究ポータルサイト」

### ②「GF 調査研究発表会 特設サイト」の開設

例年3月に保護者参観を兼ねて実施しているグローバルフォレストピア調査研究発表会が、今年度はオンライン対応となったことを受け、ポータルサイトのフレームを活用して、アクセス対象を保護者と生徒に限定した「GF 調査研究発表会 特設サイト」を開設した。特設サイトでは、全校生徒一人一人の発表スライド・ポスター等を生徒別に掲載し、YouTube で限定公開した発表動画をサイトに埋め込むことで、実際の発表会さながらの状態をオンライン上に作り出すことができた。また、それぞれの発表毎に Google フォームを利用した「コメント送信欄」を設けることで、視聴者が寄せた質問や意見・感想等がメールで生徒本人に届くシステムとした。



GF 調査研究発表会 特設サイト

### (3) 事業の成果と課題

探究活動が盛んな他校においても、生徒の探究成果物を一元的に公開している例は少なく、今回の取組みは先進的な事例になり得ると考えている。アクセス解析によると、令和3年3月時点で1日平均50件程度のページビューがあり、地域別では7割程度が宮崎県内、残り3割が全国の様々な地域からのアクセスである。また、発表会特設サイトには全学年全員分を掲載したことで、例年の校内発表会よりも学年を超えて発表を視聴できる機会が増え、コメント送信欄には、公開後1週間で合計300件超のコメントが寄せられた。それらを生徒へフィードバックすることで、本校の探究活動全体の底上げに繋がることが期待できる。

発表をインターネット上で広く公開するにあたって、著作権等の権利関係や引用のルール等の徹底と、そのチェック体制の充実が今後の課題である。

### 3-1 各種大会参加・表彰

本校生徒が参加した各種大会において、本事業の取組みに関わる受賞記録は、以下の通りである。

| 大会名                            | 部門               | 結果                             | 学年 | 氏名   |
|--------------------------------|------------------|--------------------------------|----|--|
| MY PROJECT AWARD 2019          | 日本語プレゼン          | ベスト・コ・クリエーションアワード<br>(全国代表8作品) | 5年 | 俵 匠見<br>金丸 茉尋<br>黒木 未麗                             |
| 2020年度自治医科大学<br>小論文コンテスト       | 小論文部門            | 入賞                             | 5年 | 高橋 沙希  |
| 第64回日本学生科学賞                    | 宮崎県審査/<br>中央審査   | 県知事賞/<br>入選三等                  | 2年 | 竹尾 薫   |
| 第42回宮崎県高等学校<br>総合文化祭           | 弁論部門             | 第2位(九州・<br>全国大会出場)             | 5年 | 森田 玲朱  |
| 令和2年度関係人口創出事業<br>五ヶ瀬町政策提案コンテスト | 日本語プレゼン          | 金賞                             | 4年 | 田中 凜香<br>藤原 凜華<br>田原 清華                            |
| 令和2年度関係人口創出事業<br>五ヶ瀬町政策提案コンテスト | 日本語プレゼン          | 銀賞                             | 5年 | 後藤 清楓<br>堀之内 陸十                                    |
| 令和2年度関係人口創出事業<br>五ヶ瀬町政策提案コンテスト | 日本語プレゼン          | 銅賞                             | 4年 | 時任 舞佳<br>藤原 癒久上                                    |
| 第52回(令和2年度)<br>宮崎県統計グラフコンクール   | パソコン統計<br>グラフ部門  | 県知事賞                           | 4年 | 田中 凜香<br>藤原 凜華                                     |
| 第52回(令和2年度)<br>宮崎県統計グラフコンクール   | パソコン統計<br>グラフ部門  | 県教育長賞/<br>記紀編さん1300年<br>記念賞    | 4年 | 三田 琉聖<br>齋藤 武志                                     |
| 全国知財創造実践甲子園2020                | 日本語プレゼン          | 優秀賞                            | 5年 | 後藤 清楓  |
| 全国知財創造実践甲子園2020                | 日本語プレゼン          | 奨励賞                            | 5年 | 早瀬 匠人<br>小泉 晏慈<br>出井 阿茶                            |
| 全国知財創造実践甲子園2020                | 事前研修会企画の部        | 奨励賞                            | 5年 | 堀之内 陸十   |
| WWL・SGH×探究甲子園                  | 英語プレゼン           | 出場                             | 5年 | 高橋 沙希  |
| 日本地理学会<br>2021年春季学術大会          | 高校生<br>ポスターセッション | 採択                             | 4年 | 田中 凜香<br>藤原 凜華<br>三田 琉聖<br>齋藤 武志<br>大浦 伸太郎<br>久松 創 |

※次ページに、本校で3月に実施した「グローバルフォレストピア調査研究発表会」において代表に選抜された4作品の研究要旨を掲載する。

河内ナゾトキ町探検  
～故郷を思う気持ちの醸成～

English Title : **Mystery solving event in Kawachi**

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 後期 5 年 古賀 綾奈 指導教諭 鈴木 哲史

Abstract: I ran mystery-solving event in Tabaru area of Takachiho town, Miyazaki prefecture. The town of Takachiho is famous for its myths and attracts many tourists. However, Kawachi located on outskirts of the north and there are no tourists. This town has been rapidly depopulated, so it is called "quickly-frozen town". Mystery-solving event is popular among young people in urban areas these days. This event is managed by Tabaru Mirai Project and Takachiho High school students. We asked the University of Tokyo and Sumida mystery factory to help us carry out this event. We interviewed elementary school students living in Kawachi and people familiar with history of the Kawachi, and created mysteries and stories based on them. We assume that the contents of the mystery-solving event will be able to walk around the town in about two hours. There are no restaurants in this town. Therefore, I asked people in Kawachi to open restaurants for a temporary during this event held on. Its goal is foster civic pride among residents.

Keywords: Mystery-solving event Civic pride Depopulation GIAHS Region

## 1 研究背景

高千穂町椎葉山地域ではすべての地域が消滅可能性都市に指定されていて、過疎化が問題視されている。15歳から24歳という進学～就職の時期に多くの若者が転出しており進学、雇用を求める若者の流出が人口減少に大きな影響を与えているのだ。私が実際にイベントを実行した高千穂町河内地区もそのひとつである。

「はやくこんな、なんもない田舎町から出て行きたい」これは高千穂の中学生がSNSにアップロードしていた台詞だ。この投稿は、多くの子ども達が町の魅力に気づかないまま進学や就職のために外に出て行き、そのまま帰ってこないのではないかと考えさせられるものであった。

このような背景から、高千穂郷椎葉山地域で過疎化が進んでいる原因は、地元の人が自分たちの町に自信が持っていない人がいるからではないかと考えた。そこで高千穂中の河内地区で活動している

「田原ミライPJ」の方々、そして高千穂高校のGIAHSアカデミーのメンバーと協力し住民たちの地元愛を育成できるようなイベントを行うことにした。このイベントを通して町の方々の地域愛の醸成をサポートができると考えた。

## 2 研究目的・意義

①高校生がメインで運営し、地域の子ども達も企画、広報、運営側に巻き込むことで、自分達の地域に自信と誇りをもてる機会を創出する。

②河内地区を舞台としたリアル謎解きイベントを実施することで、町内外の参加者が地域の歴史や魅力を楽しみながら感じ取れる機会を創出する。

③町外で生活する地元出身の若者に集客等の協力をしてもらうことで、離れていても地元に貢献し、つながりをもてる機会を創出する。

### 3 研究方法

ア 河内で哲学対話の実施

イ 民活動支援事業での提言

ウ 「河内謎解き町探検の実施

### 4 結果・考察

2019年10月19日、20日に第1回河内ナゾトキ町探検を実施した。当日は116人が参加し約15万円の売り上げがあった。0歳から91歳まで幅広い年齢層の方がイベントに参加してくださった。臨時カフェにも多くの人が集まった。参加者も町民である運営スタッフからも「楽しかった！また参加したい」「河内でこんなことができるなんてすごい！」という感想をいただいた。当日は15人ほどの田原小学校生徒にスタッフとして参加してもらった。多くの小学生が最初は受身であったが、しばらくすると自分から謎解き参加者に対して率先してサポートしている様子が見られ、小学生の成長が目に見えてわかったと多くの人が言っていた。第2回河内ナゾトキ町探検を2021年1月10日に実施予定であったが新型コロナウイルスの影響で中止になってしまった。

### 5 結論及び今後の展望

参加者からのアンケートや町民からの声より多くの人々が町の魅力に気づくことができた、町のことがより好きになった、という声が届いた。町の魅力、歴史、そしてこの町で生きることの良さを共有することができたといえるだろう。このイベントで人口減少を食い止めることはできないと思うが、まず私たちが行動しイベントを行うことで多くの街の子供達を巻き込み、この活動に参加した小学生、中学生の町を慕う気持ちを醸成し、町をより良くするために動いてくれるような子どもたちを育成したいと考えている。そしてこの地域全体で自分自身が関わって地域を良くしていこうとするシビックプライドを持った人々を増やすきっかけ作りとして地域創生を推進して生きたい。この活動一回で終わらせてしまえばあまり効果がないと思うので、高千穂高校 GIAHS アカデミーの後輩、そして五ヶ瀬中等教育学校からの有志を集めてこれからも活動していくつもりだ。

### 謝辞

田原未来プロジェクトの茨城いずみ様、そして担当教諭である鈴木哲史先生に研究の進め方や枠組みについて有益なご助言を頂きました。またこの研究は令和元年度、令和二年度の町民活動支援事業の助成金交付により遂行されたものです。心より感謝申し上げます。

### 参考文献・引用文献

高千穂町町民活動支援事業計画書(2019/05/23)

「河内謎解き町探検」ドキュメント 東京大学大学院多文化共生・統合人間学プログラム学生有志 編集  
田邊裕子、中川亮、宮田晃碩(2020/03/31)

外国人が熱狂するクールな田舎の作り方 著者 山田拓新潮社 (2018/01/25)

高千穂町人口ビジョン <https://www.amita-oshiete.jp/qa/entry/015042.php>

CSR・環境戦略 Q&A おしえて！アミタさん 消滅可能性都市について

<https://www.amita-oshiete.jp/qa/entry>

WORKSIGHT シビックプライドが地域の価値を再定義する

<https://www.worksight.jp/issues/831.html>

# 廃棄肉の活用 ～ジビエ給食定着化を目指して～

How to utilize killed wild animals

～Aiming to establish gibier lunch～

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 後期5年 後藤 清楓  
指導教員 西村 嘉史

Abstract: In Gokase town, a lot of deer and wild boars are killed to protect crops - 1093 deer, and 651 wild boars in 2018, but only about 2% are used to venison, and about 1% are used to boar. I'm considering if venison, which is the meat from a deer, can be provided for school lunch. The total weight of venison was 16kg, and 60g was provided per person. Its cost, when purchased in quantity, is 56,000 yen, which was 8 yen more expensive than the average price of regular school lunch, which is 310yen. The total weight of venison was 16kg, and 60g was provided per person. Its cost, when purchased in quantity, is 56,000 yen, which was 8 yen more expensive than the average price of regular school lunch, which is 310yen.

Keywords: Gibier School lunch Cost System

## 1 研究背景

五ヶ瀬町では、農作物を守るため毎年多くの鹿や猪などの鳥獣が駆除されている。しかし、実際に食肉として活用されているのは1～2%ほどしかない。多くの肉が活用されずに捨てられている。鹿や猪の肉は近年アスリートフードとして注目されている。そのような魅力的な食材を捨てるのはとても無駄なことだと考えた。

## 2 研究目的・意義

この研究を通し、捨てられている鳥獣肉を教育の現場で活用できるだけでなく、五ヶ瀬町の新たな魅力として発信することにより、五ヶ瀬町の知名度アップにもつながるのではないかと。

## 3 研究方法

宮崎県西米良村教育委員会、和歌山県古座川町町教育委員会の方々にインタビューを行い、五ヶ瀬町に対応したジビエ給食導入方法を考え、五ヶ瀬中等教育学校で実証実験を行ったあと、五ヶ瀬町内の小学校で実証実験を行った。

## 4 結果・考察

2つの実証実験を比較し、人数が多いほうが費用が安くなること、給食費用が安い小学校では、定期的にジビエ給食費用を提供することは難しいことがわかった。また、鳥獣肉を指すジビエを知らない学年のほうが、ジビエ給食を美味しいと答えた人数が多い傾向にあった。(五ヶ瀬中等教育学校で行ったアンケート結果)

## 5 結論及び今後の展望

より安く提供できるルートの模索、そして子供たちにジビエについてもっと知ってもらうためにパンフレットを作成し小学校に配布したいと考えている。

## 6 参考文献・引用文献

広告五ヶ瀬町2020年4月号 No.639 マイ広告紙 <https://mykoho>koho>広報五ヶ瀬-20204月号-n>

グローバルフォレストピア学習課題研究収録 令和2年度 中島晴也

西米良村ジビエ処理加工施設 代表小佐井 武憲様

和歌山県古座川町教育委員会 漁野貴洋 様

毎日新聞社デジタル2017年3月13日給食:高級食材ジビエ”一石二鳥獣“の試み

<https://mainichi.jp>articles>

[五ヶ瀬町鳥獣被害防止計画](#)

<http://town.gokase.miyazaki.jp > material > files > group>



# 若者の低投票率の改善のための考案

～高校生を主体とした親子で選挙を学ぶ体験活動の実践と分析を通して～

## Improving youth's voting condition

～ through the voting activities for children and their parents at school ~

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 5年A組 出井 阿茶

指導教諭 外山 岳志

**Abstract:** In 2016, Japan lowered the voting age to 18. However, there is a gap between the voting rate of young people and their political interests. To bridge the gap, improving civic education is thought to be necessary. Furthermore, from some surveys, the youth's voting experiences in childhood with their parents are thought to be essential. Thus, the aim of this research is to propose and implement a plan to raise the voting rate of young people.

**Keywords:** lowering voting age family childhood

### 1 研究背景

日本は今、投票率が下がっている。特に若者の投票率は OECD 諸国の平均を下回っている。(OECD,2019)我が国では、2016 年参議院選挙から選挙権年齢が 20 歳から 18 歳に引き下げられた。世界各国を見ても、187 か国中、88.8 パーセントの 166 か国が選挙権年齢を 18 歳に定めている。(国立国会図書館,2020)さらに現在は、選挙権年齢の引き下げに伴って、被選挙権年齢の引き下げも議論されている。(国立国会図書館,2020)

我が国の若年層の投票率のデータを見ると 2016 年の参議院選挙の 18 歳の投票率は抽出データで 46.7% (総務省,2016)だったのに対し 2019 年の同選挙では 34.68%と大きく減少している。さらに、宮崎県の 18 歳の投票率は 27.38%と低い。(総務省,2019)

### 2 研究目的・意義

若者の投票率の低下は、民主主義の破綻をもたらさう。島澤(2017)は高齢者比率の上昇は、政治が、再分配の規模と期待できる投票率を世代別に比較衡量した上で、シルバー優遇政治を選択することにつながる、とした。

さらに八代(2016)は若者の投票率の低下は、社会保障制度や企業の雇用慣行において、若者より高齢者を優先することによる世代間格差の広がりを引き起こすとした。また、島澤(2017)は、将来世代と0歳世の生涯純負担率を比較すると将来世代の生涯純負担率は0歳世代よりも27ポイント大きくなっている、という。さらに、小林(2014)は低投票率の世代が年齢を重ねたとしても、投票へ行かない人が多いことから、若年層の低投票率が、将来的に日本全体の投票率を引き下げ、選挙を通じた代議員制民主主義の信頼性を失わせることになりかねないとした。こうした問題意識のもと、本研究では現状の調査・分析をもとに、実践的な解決策を提案・実行することで若年層の投票率の向上を目指す。まず、若年層の低投票率の要因を、先行する調査や研究データを用いて分析し、それをもとに解決策の提案・実践を行った。

### 3 研究方法

#### ① 文献調査

|      |   |
|------|---|
| 調査概要 | 日本の若年層における投票行動、投票棄権の理由、投票環境、教育機関における主権者教育の現状、日本と諸外国と選挙制度と主権者教育の比較などを若年層の低投票率の要因を明らかにする。 |
| 調査対象 | OECD、総務省、内閣府、宮崎県選挙管理委員会の各種報告書 他   |

#### ② インタビュー調査

|      |  |
|------|--|
| 調査概要 | 宮崎県全体と五ヶ瀬町における投票状況や投票環境、課題、教育機関における主権者教育の現状を明らかにする。  |
| 調査対象 | 宮崎大学大学院教育研究科 吉村功太郎教授、宮崎県選挙管理委員会、五ヶ瀬町選挙管理委員会、宮崎県教育委員会、宮崎公立大学選挙啓発部ライツ、五ヶ瀬町立五ヶ瀬中央保育所 園長甲斐先生 他 |

#### ③ 解決策の提案・実践

|      |  |
|------|--|
| 概要   | ①～②の調査結果をもとに、投票率の向上を目指した解決策を議論し、計画の提案・実践を行う。 |
| 連携機関 | 宮崎大学大学院教育研究科 吉村功太郎教授、宮崎県選挙管理委員会、五ヶ瀬          |

#### 4 結果・考察

まず、国政選挙に対する投票行動や投票棄権理由の調査を分析から、日本の若年層の投票棄権の理由を、環境要因から投票に「行けない人」と心理的要因から投票に「行かない人」の2つに分類し、解決策を提案した。しかし、投票に「行けない人」への投票環境の改善の提案では選挙の公平性の担保、投票所運営の人員不足、システム導入の費用などのクリアしなければならない課題は多く、自分の力の限界ともどかしさを感じた。そこで投票に「行かない人」に焦点を当てて研究を進める方向に切り替えることにした。投票に「行かない人」の主な理由としては、政治への知識不足からくる投票への不安や政治的効力感の不足などが挙げられる。また、18歳選挙に関する意識調査から投票に行く人は行かない人と比較して子供のころに選挙を体験している割合が高いことが分かった。(総務省, 平成 28)そこで、Roger A.Hart(1992)が唱えた「子どもが主体的に取りかかり、大人と一緒に決定する」をもとに、新しい主権者教育の提案を行った。

#### 5 結論及び今後の展望

本研究では、若年層の低投票率の要因を調査・分析し、実践的な解決策の提案を行ってきた。投票へ「行けない人」に対して五ヶ瀬町に提案した解決策では、期日前投票所の運用の在り方や既存のコミュニティバスを使った移動支援について、一定の理解を得られた。一方で、選挙の公平性の担保、投票所運営の人員不足、システム導入の費用などの新たな課題が生まれた。投票へ「行かない人」に対しては幼少期における親子での選挙・政治体験活動を行い新たな課題が見つかった。また、高校生の主体的な主権者教育(活動グループの結成・活動の運営)とNIE(Newspaper of education)を活用した、新聞紙を用いて社会の出来事に気軽に関心を持ってもらう活動の計画・実践を行っていく。これらの計画すべて、実施結果の考察をもとにさらなる実践・検証を行っていく必要がある。今後は五ヶ瀬町立五ヶ瀬中央保育所と連携しつつ、実践の継続と改善を行っていく。また、NIEを活用した活動は五ヶ瀬町内の小中学校と連携しながら運営を行っていきたいと考えている。

#### 謝辞

本論要旨の作成にあたり、多くの方々にご支援いただきました。本研究のためにご協力いただいた皆さまに心から感謝いたします。五ヶ瀬中央保育所職員の方々、宮崎大学大学院研究科の吉村功太郎教授、指導教員の外山岳志先生より多くの貴重なご指導とご協力をして頂きました。ありがとうございました。

#### 参考文献・引用文献

- OECD.(2019).*OECD Social Indicators.Society at a Glance 2019*  
OECD Indicators.(2011). *Education at a Glance 2011*  
国立国会図書館. (2020). 諸外国の選挙権年齢及び被選挙権年齢. レファレンス. pp. 57-74  
小林良彰. (2014). 加齢効果より大きい世代効果. *Voters*, 20, pp. 4-5  
内閣府. (2019). 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査(平成 30 年度). <https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/h30/pdf>. 2019 年 11 月 10 日  
総務省. (2016). 第 48 回衆議院選挙結果. <http://www.soumu.go.jp/senkyo/48sansokuhou/index.html>. 2018 年 7 月 20 日  
総務省. (2019). 令和元年 7 月 21 日執行参議院議員通常選挙速報結果. [https://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo\\_s/data/sangiin25](https://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/data/sangiin25). 2020 年 1 月 7 日  
松本恵満研究論文要旨  
お茶の水女子大学幼児発達教育センター幼児教育ハンドブック [ocha.ac.jp/intl/cwed\\_old/eccd/handbook.html](http://ocha.ac.jp/intl/cwed_old/eccd/handbook.html). 2004 年. pp. 33-40  
Roger A.Hart(1992). *Children's participation from tokenism to citizenship*. InnocentiEssays. 4. Unicef. pp8.  
総務省. (2017). 移動支援、移動投票所の取り組みについて. [http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000468028.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000468028.pdf). 2018 年 10 月 30 日  
総務省. (2017). 投票環境向上に向けた取組事例集. [http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000468028.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000468028.pdf). 2018 年 10 月 30 日  
宮崎県選挙管理委員会. (2015). もうすぐ有権者! 高校生 3 万人アンケート. <https://www.pref.miyazaki.lg.jp/senkyo/kense/senkyo/enquete30000.html>. 2018 年 7 月 20 日  
文科省. (2015). 主権者教育の実施状況調査. [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2016/06/14/1372377\\_02\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/06/14/1372377_02_1.pdf). 2018 年 6 月 7 日  
明るい選挙推進委員会. (2016). 第 47 回衆議院議員選挙全国意識調査(平成 28 年度)調査結果の概要  
総務省. (2017). 投票環境向上に向けた取組事例集. [http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000468028.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000468028.pdf). 2018 年 10 月 30 日  
藤井剛. (2016). 主権者教育のすすめ. 清水書院  
川上和久. (2016). 18 歳選挙権ガイドブック. 講談社

# 五ヶ瀬町における関係人口創出事業～小学生向けキャンプ～ WILD CAMP in Gokase

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 後期 5年 金丸 茉尋  
黒木 未麗  
俵 匠見  
指導教諭 福嶋 航

**Abstract:** The purpose of this research is to plan, execute, and continue camp projects for elementary school students, and to promote the increase of the related population, aiming for a sustainable society. Services that promote people's connections are starting to increase, but they are all about "making it easier for people in the city to be interested and to engage with the community." In other words, it can be said that there are not enough measures in the direction of "creating an ideal related population for the region." The challenge of getting people to become attached to the area by starting with nature, food, and events is that there is a long way to go from being interested in a part of the area to being attached to the area itself, and the hurdles are high. Therefore, I thought that by targeting elementary school students, it would be possible to increase the number of people involved who are attached to the area itself. This is because childhood experience is deeply rooted and remains even after growing up. Conduct a camp and get feedback from participants. Since this is a small-scale measure, we emphasize qualitative survey results rather than quantitative data.

**Keywords:** Related population, project, Vitalize, Hilly and Mountainous Areas ,tourist,migrants

## 1 研究背景

持続可能な地域社会には、観光客以上、移住者未満の「関係人口」が必要であると提唱されている。コロナ禍の影響もあり、人の繋がり方は多様になり、それを促進するサービスも増え始めている。(図1) 地域住民は里山資本主義的な価値観で地元の魅力を再発見し、関係人口が現代資本主義的なアプローチで都市部に届ける、という構造が生まれている。

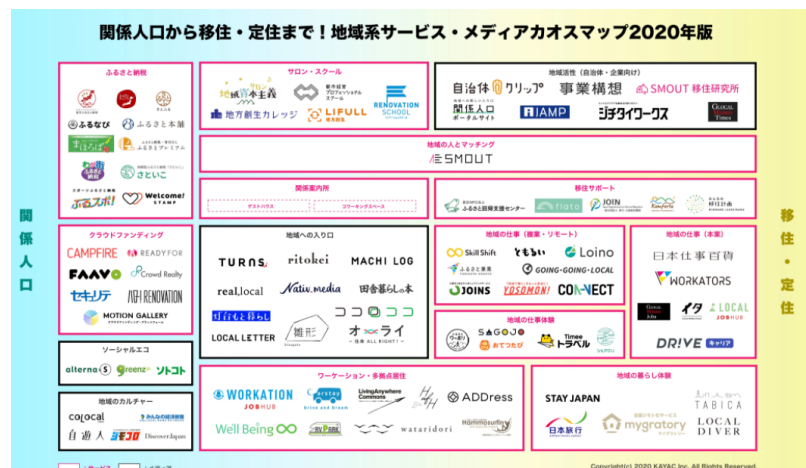


図1 SMOUT より

## 2 研究目的・意義

持続可能な社会を目指し、小学生向けキャンプ事業を計画、実行、継続し、関係人口の増加を促進することを本研究の目的とする。これらのサービス(図1)はすべて、当然サービス利用者の視点で作られており、「都会の人が興味を持ちやすく、地域と関わりを持ちやすくする」方向性である。つまり、「地域にとって理想的な関係人口を作る」方向性の施策が足りていないと言える。

自然や食、イベントを取っ掛かりに、地域に愛着を持ってもらうことの課題は、地域の一部に興味を持ってから、地域そのものに愛着を持つまでの道のりが長く、ハードルが高いことである。そこで、小学生をターゲットにすることで、地域そのものに愛着を持った関係人口を増やせるのではないかと考えた。幼少期の経験は深層に根付き、成長してからも残るからだ。東京未来大学の研究によると、「身近な環境に関する子どもの『自然への感受性』は、

より詳細に認知し表出され、また日常の経験もエピソードとして表出されることが明らか」であり、『自然への感受性』は幼少期の自然との接触頻度が関連すると考えられている。

### 3 研究方法

小学生を対象にキャンプを開催し、参加者からフィードバックを得る。適正規模が小さく、対象人数が十分な数を確保できないので、量的なデータよりも、質的な調査結果を重視する。

### 4 結果・考察

二回の開催から得られたことをもとに、考察する。

①参加者の居住地区は、町内：0名 近隣の街：26名 であった。

②リピーター数：0名

③参加者の声

「キャンプで興味を持ってこの街の学校のオープンスクールに参加した」

考察：思い出に残るキャンプが開催できている。当初の予定では、町内と町外の小学生を繋げるはずだったが、居住地に拘る必要はないと思った。成長してから、再び集まれるきっかけにさえなれば良いと思った。

### 5 結論及び今後の展望

参加した小学生の思い出に残る、濃いキャンプが開催できた。

今後の関係人口の増加には、「場」があり続けることが不可欠である。また、関わり続けてもらうための工夫も必要である。

具体的には、

①年三回の定期開催

②福岡県をターゲットに絞ったマーケティング、九州内でのブランド確立

③プログラム内容の改善

に取り組んでいく。

### 参考文献・引用文献

「ソトコト第20巻第2号(通巻224号)関係人口入門」小黒一三 発行 指出一正 著

「僕らは地方で幸せを見つける」 指出一正 著

「関係人口論とその展開(pdfファイル)」 小田切徳美 著

「関係人口創出事業」 総務省

「里山資本主義—日本経済は安心の原理で動く」 藻谷浩介 NHK 広島取材班 著

「持続可能な地域の作り方」 笥祐介著

「しなやかな日本列島のつくりかた：藻谷浩介対話集」 藻谷浩介 著

「藻谷浩介さん、経済成長がなければ僕たちは幸せになれないのでしょうか？」 山崎亮 藻谷浩介 著

「子供の自然への感受性」 藤後悦子・磯友輝子・坪井寿子・坂元昂

[https://www.tokyomirai.ac.jp/research\\_report/essay/pdf/3-6.pdf](https://www.tokyomirai.ac.jp/research_report/essay/pdf/3-6.pdf)

「リクルートOBのすごいまちづくり」「リクルートOBのすごいまちづくり2」かもめ地域創生研究所

「コミュニティデザイン 人がつながるしくみをつくる」「コミュニティデザインの時代」 山崎亮 著

「ファンベース」佐藤尚之 著

「質的社会調査の方法」 岸政彦 石岡丈昇 丸山里見 著

### 3-2 先進校視察・県外研修等

本校職員が参加した先進校視察・県外研修について、本事業の取組みに関わるものは、以下の通りである。

| 期日       | 視察先・研修会                               | 会場                     |
|----------|---------------------------------------|------------------------|
| 5月9日     | ICT活用に関する教員研修会・事例発表<br>主催：こゆ地域づくり推進機構 | ZOOM ミーティング            |
| 8月4日     | 島根県教員研修会・事例発表<br>主催：島根県教育委員会          | ZOOM ミーティング            |
| 9月4日     | SCH 西日本シンポジウム・事例発表<br>主催：広島県立大崎海星高校   | ZOOM ミーティング            |
| 9月4日     | SCH 西日本シンポジウム・事例発表<br>主催：広島県立大崎海星高校   | ZOOM ミーティング            |
| 11月10日   | 宮崎県教育情報化セミナー<br>主催：宮崎県教育委員会           | ZOOM ミーティング            |
| 12月2日～4日 | 先進校視察                                 | 岩手県立盛岡第一高校<br>岩手県立大槌高校 |
| 12月8日    | G型事業 全国サミット・事例発表<br>主催：文部科学省          | ZOOM ミーティング            |
| 12月18日   | SSH 課題研究発表大会                          | 宮崎県立宮崎北高校              |
| 2月13日    | 全国マイプロ伴走者フォーラム・事例発表<br>主催：NPO 法人カタリバ  | ZOOM ミーティング            |
| 2月27日    | SCH 全国シンポジウム・事例発表<br>主催：東北芸術工科大学      | ZOOM ミーティング            |

#### 4-4 来校者一覧

令和2年4月～令和3年3月  
(月/日) 訪問者数を示す

|      | 教育委員会・行政等   | 学校関係   | P T A他   |
|------|---|--|--|
| 宮崎県内 | 高校教育課<br>山崎指導主事<br>運営指導委員<br>(7/16) 5名  | 五ヶ瀬町教育委員会<br>田中指導主事<br>五ヶ瀬町立小中学校の先生方<br>(5/14) 15名 | UMK テレビ宮崎<br>(7/16) 4名<br><br>GIAHS 協議会<br>工藤久生事務局長<br>田崎友教氏<br>(6/2) 2名 |
|      | 高校教育課<br>山崎指導主事<br>運営指導委員<br>教育研修センター<br>(7/17) 8名  | 宮崎大学<br>伊藤健一准教授<br>(7/16) 1名                       | グローカルアカデミー<br>田阪真之介氏<br>(6/2, 9/10, 3/12) 1名                             |
|      | 県教育委員<br>県教育政策課<br>(10/30) 7名   | 宮崎国際大学<br>ウォーカー・ロイド教授<br>(3/12)                    | NPO 法人田原未来プロジェクト<br>興柁重徳理事長 他1<br>(3/4)                                  |
|      | 日向市教育長 他<br>(11/5) 2名   | 九州保健福祉大学<br>甲斐久博准教授<br>(3/12)                      | GIAHS 協議会<br>田崎友教氏<br>(3/12)   |
|      | 高校教育課<br>山崎指導主事<br>運営指導委員<br>(11/26) 2名   |  |  |
|      | 義務教育課<br>赤池指導主事<br>多田指導主事<br>教育研修センター<br>渡木副主幹<br>黒木指導主事<br>羽田野祥子氏<br>高校教育課<br>山崎指導主事<br>(3/12) |  |  |
|      |   |  |  |
| 県外   | 岡山県議会議員<br>(10/29) 13名  | 広島県立大崎海星高校<br>(10/19, 20) 7名                       |  |
|      |   | 島根県立津和野高校<br>(11/19, 20) 6名                        |  |
|      |   | 和歌山大学観光学部観光学科<br>出口竜也教授<br>竹林浩志准教授<br>(3/16)       |  |
|      |   | 津和野町中学校コーディネーター<br>(3/17)                          |  |

### 3-4 運営指導委員会

#### ○目的

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業・グローバル型」の円滑な運営を図るため、取組計画及び実施内容等の確認を行うとともに、専門的見地から指導、助言を行い、指定校における研究開発を促進する。

#### ○運営指導委員

- ・宮崎国際大学 学部長補佐・地域連携センター  
ウォーカー・ロイド
- ・九州保健福祉大学薬学部 准教授 甲斐 久博
- ・446株式会社 代表取締役 吉村 優
- ・株式会社新海屋 代表取締役 小川 祐介
- ・県農政水産部農政企画課中山間農業振興室  
中山間活性化担当 室長 小林 貴史

#### ○議事録

##### [第1回運営指導委員会]

昨年度の取組及び本年度の取組、新型コロナウイルス感染症拡大によるオンラインを活用した新しい探究・協働様式、学習継続化の取組について説明し、意見交換を行った。

- 日時 令和2年7月16日(木)  
中間発表会参加  
午後1時20分から午後4時まで  
令和2年7月17日(金)  
運営指導委員会  
午前9時から午前11時まで
- 会場 五ヶ瀬中等教育学校
- 会次第 ①県教育委員会あいさつ  
高校教育課 課長 押方 修  
②学校長あいさつ(校長 鬼東雅史)  
③出席者自己紹介  
④本年度の実施内容等説明  
⑤質疑応答、指導・助言

#### 4 内容(主な感想や意見等)

・海外研修についても現地でなくてもできることやオンラインでの代替が可能なのもあるので、そのような可能性を今後考えてはどうか。

- ・オンラインを活用した取組は評価できる。オンラインを利用するための環境は十分に整っているのか。貸し出し端末などの整備が必要ではないか。
- ・3年生の実績として具体的などころが見えにくい。
- ・国事業として予算を活用して得た学びをどのように持続・自走させていくかを運営指導員や職員、地域と一緒に考えていく必要がある。

##### [第2回運営指導委員会]

オンラインを活用したハイブリッド型の本年度の実施内容や来年度の取組計画や今後の本校の在り方等について説明し、意見交換を行った。

- 日時 令和元年11月26日(木)  
運営指導委員会  
午後13時30分から午後15時30分
- 会場 五ヶ瀬中等教育学校
- 会次第 ①県教育委員会あいさつ  
高校教育課 指導主事 山崎俊一  
②学校長あいさつ(校長 鬼東雅史)  
③本年度の実施内容等説明  
④来年度の取組計画等説明  
⑤質疑応答、指導・助言

#### 4 内容(主な感想や意見等)

- ・新型コロナウイルス対応で予定変更も多かったと思うが、オンライン等を有効活用した先進的な取組は素晴らしい。
- ・オンライン学習でよく見られることであるが、「学び方を知らない人が知識だけを入れようとしてしまう」という状況にならないように。学び方を自ら考えて動ける人材の育成をして欲しい。
- ・オンライン学習は「学んだつもり」になりやすいので気をつけて欲しい。
- ・福岡大学の取り組み例のような、学問領域を超えた学際的な取り組みなども今後伸ばしておいてほしい。
- ・SDGsはどのように取り組んでいるのか、もっとアピールしてもよいのではないかな。
- ・今後、オンライン活用は必須となるので、学校としてしっかりと取り組んで欲しい。
- ・本校が目指すものを体現する新たなカリキュラム開発に取り組んで欲しい。

## 4-6 新聞記事等

本校の特色を発信する手段として、報道機関からの本校の紹介がある。新聞やテレビ等に本校の様々な取組を取り上げてもらうことで、多くの児童・保護者へ本校の具体的な取組を伝えることができた。

取り上げられた新聞記事等は、掲示板に随時掲示し、本校生徒への意識付けとともに、来校者の目を引くようにした。また、テレビでは、特に県の教育広報番組であるMRT宮崎放送「みらい・みやざき まなび隊」、UMKテレビ宮崎「のびよ！みやざきっ子」において本校の教育活動の様子を放映していただき、広く県民の方々に取組を紹介することができた。

### 【新聞報道】

| 期 日         | 内 容(見出し)                       | 報道機関・出版社名 | 掲載 |
|-------------|--------------------------------|-----------|----|
| 2020年 9月14日 | 荒踊り 五ヶ瀬中等1年生も体験                | 夕刊デイリー    | ○  |
| 2020年 9月29日 | 荒踊り 文化理解深める 坂本小訪問も             | 宮崎日日新聞    | ×  |
| 2020年11月18日 | 地域の「ゆたかさ」考える<br>世界農業遺産 中高生がシンポ | 朝日新聞      | ×  |
| 2019年11月15日 | 若い発想で関係人口創出<br>五ヶ瀬中等生ら政策提案     | 宮崎日日新聞    | ×  |

### 【テレビ報道】

| 期 日         | 内 容            | 報道機関名                 |
|-------------|----------------|-----------------------|
| 2020年 5月26日 | 土呂久地区訪問        | UMK テレビ宮崎 ドキュメンタリー    |
| 2020年 8月15日 | いのちを大切にする教育の推進 | MRT宮崎放送 みらい・みやざき まなび隊 |
| 2020年 8月29日 | 五ヶ瀬TUNAGU      | UMK テレビ宮崎 のびよ！みやざきっ子  |
| 2020年 9月23日 | 荒踊り体験          | MRT 宮崎放送 ニュースNext     |
| 2020年11月13日 | 土呂久地区訪問        | UMKテレビ宮崎 スーパーニュース     |

### 2020年9月14日（月）夕刊デイリー

**五ヶ瀬中等  
1年生も体験**

この日の稽古には、同町の県立五ヶ瀬中等教育学校（鬼東雅史校長）の1年生39人も参加した。その後、同地区にある「荒踊の館」で、荒踊について同館館長で坂本荒踊保存会会長の長田豊明さん（65）から説明を聞いた。

同校の1年生は毎年、総合的な探究の時間を使って「地域を知る」をテーマにわらし作り、田植え、茶摘みなど郷土に関する体験学習を行っている。荒踊の学習はその一環。坂本小では、児童の動作を見ながら踊った。館では、荒踊を説明する映像を鑑賞。長田さんは「地区の人は荒踊を誇りに思っている。荒踊を踊る祭りの日には、町外、県外にいる人も帰って来ると、地元で受け継がれる荒踊への思いなどを話した。

日向市出身の黒木裕実さん（12）は「体験や話を聞いて、荒踊が今まで伝わっているのは昔の人が努力したからだと知った。これからも五ヶ瀬の農業や自然について学びたい」と話した。

長田さんは「生徒は6年間五ヶ瀬町にいるので、来年以降機会があれば荒踊を見に来てほしい。また、それぞれの地元の郷土芸能を大事にして継承してほしい」と話した。



マスク姿で「荒踊」を体験する五ヶ瀬中等の1年生坂本小学校



3-6 教育課程表

令和2年度教育課程授業時数及び単位数表 (A表)

| 前期課程                 |                    |                    | 後 期 課 程 ( 普 通 科 ) |          |                               |     |         |    |    |     |     |    |   |    |
|----------------------|--------------------|--------------------|-------------------|----------|-------------------------------|-----|---------|----|----|-----|-----|----|---|----|
| 年間授業時数 (週)           |                    |                    | 教科名               | 単 位 数    |                               |     |         |    |    |     | 備考  |    |   |    |
| 1年                   | 2年                 | 3年                 |                   | 科目名      | 標準<br>単位数                     | 4年  | 5年      |    | 6年 |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          |                               |     | 文系      | 理系 | 三文 | 五文  | 理系  |    |   |    |
| 155<br>(4.3)<br>[45] | 140<br>(4)<br>[35] | 105<br>(3)<br>[35] | 国語<br>[書写]        | 国語       | 国語総合                          | 4   | 5       |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 国語表現                          | 3   |         |    |    | ②   |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 現代文A                          | 2   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 現代文B                          | 4   |         | 3  | 3  | 3   | 3   | 2  |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 古典A                           | 2   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 古典B                           | 4   |         | 2  | 2  | 3   | 3   | 3  |   |    |
| 105<br>(3)           | 105<br>(3)         | 140<br>(4)         | 社会                | 地理<br>歴史 | 世界史A                          | 2   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 世界史B                          | 4   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 日本史A                          | 2   | 2       |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 日本史B                          | 4   |         | 3  | 2  | 4   | 4・4 | 4  | 4 |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 地理A                           | 2   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   | 地理B      | 4                             |     |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   | 公民       | 現代社会                          | 2   |         | 2  | 2  |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 倫理                            | 2   |         |    |    | 2   |     | 2  |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 政治経済                          | 2   |         |    |    | 2   |     | 2  |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 数学Ⅰ                           | 2   |         |    |    |     |     |    |   |    |
| 数学Ⅱ                  | 2                  |                    |                   |          |                               |     |         |    |    |     |     |    |   |    |
| 140<br>(4)           | 140<br>(4)         | 35<br>(1)          | 数学Ⅰ               | 数学       | 数学活用                          | 2   |         |    |    | 1   |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 数学Ⅰ                           | 3   | 2       |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 数学A                           | 2   | 2       |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    | 105<br>(3)         |                   |          | 数学Ⅱ                           | 数学  | 数学Ⅱ     | 4  | 1  | 4   | 4   |    | 2 | ◇3 |
|                      |                    |                    |                   |          |                               |     | 数学B     | 2  |    | 2   | 2   |    | 2 | 2  |
|                      |                    |                    |                   |          |                               |     | 数学Ⅲ     | 5  |    |     |     |    |   | ◆5 |
|                      |                    |                    |                   |          |                               |     | 学設:数学探究 |    |    |     |     |    | 2 | ◇2 |
| 105<br>(3)           | 140<br>(4)         | 140<br>(4)         | 理科                | 理科       | 科学と人間生活                       | 2   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 物理基礎                          | 2   | 2       |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 物理                            | 4   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 化学基礎                          | 2   | 2       | 1  |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 化学                            | 4   |         |    | 3  |     |     | 4  |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 生物基礎                          | 2   | 2       | 1  |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 生物                            | 4   |         |    | 2  |     |     | 4  |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 地学基礎                          | 2   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 地学                            | 4   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 理科課題研究                        | 1   |         |    |    |     | 2   |    |   |    |
| 学設:理科基礎探究            |                    |                    |                   |          |                               |     | 3       |    |    |     |     |    |   |    |
| 105<br>(3)           | 105<br>(3)         | 105<br>(3)         | 保健<br>体育          | 保健<br>体育 | 保健                            | 2   | 1       | 1  | 1  |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 体育                            | 7~8 | 3       | 2  | 2  | 2   | 2   | 2  |   |    |
| 45<br>(1.3)          | 35<br>(1)          | 35<br>(1)          | 音楽                | 芸術       | 音楽Ⅰ                           | 2   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 音楽Ⅱ                           | 2   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 音楽Ⅲ                           | 2   |         |    |    |     |     |    |   |    |
| 45<br>(1.3)          | 35<br>(1)          | 35<br>(1)          | 美術                | 芸術       | 美術Ⅰ                           | 2   | 2       |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 美術Ⅱ                           | 2   |         | 2  |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 美術Ⅲ                           | 2   |         |    |    | 2・② |     |    |   |    |
|                      |                    |                    | 書道                | 芸術       | 書道Ⅰ                           | 2   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 書道Ⅱ                           | 2   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 書道Ⅲ                           | 2   |         |    |    |     |     |    |   |    |
| 140<br>(4)           | 140<br>(4)         | 140<br>(4)         | 外国語               | 外国語      | コミュニケーション英語基礎                 | 2   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | コミュニケーション英語Ⅰ                  | 3   | 3       |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | コミュニケーション英語Ⅱ                  | 4   |         | 4  | 4  |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | コミュニケーション英語Ⅲ                  | 4   |         |    |    | 5   | 5   | 4  |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 英語表現Ⅰ                         | 2   | 2       |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 英語表現Ⅱ                         | 4   |         | 2  | 2  | 2   | 2   | 2  |   |    |
| 英語会話                 | 2                  |                    |                   |          | 2                             |     |         |    |    |     |     |    |   |    |
| 70<br>(2)            | 70<br>(2)          | 35<br>(1)          | 技術<br>家庭          | 家庭       | 家庭基礎                          | 2   | 1       | 1  | 1  |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 家庭総合                          | 4   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 生活デザイン                        | 4   |         |    |    |     |     |    |   |    |
|                      |                    | 35<br>(1)          | 情報                | 情報       | 社会と情報                         | 2   | 1       | 1  | 1  |     |     |    |   |    |
|                      |                    |                    |                   |          | 情報の科学                         | 2   |         |    |    |     |     |    |   |    |
| 35                   | 35                 | 35                 | 道徳                |          |                               |     |         |    |    |     |     |    |   |    |
| 35                   | 35                 | 35                 | 特活                |          | LHR                           | 3   | 1       | 1  | 1  | 1   | 1   | 1  |   |    |
| 70                   | 70                 | 70                 |                   |          | 総合的な探究の時間(4・5年)/総合的な学習の時間(6年) | 3~6 | 2       | 2  | 2  | 1   | 1   | 1  |   |    |
| 1050<br>(30)         | 1050<br>(30)       | 1050<br>(30)       | 授業<br>時数          |          | 総単位数                          |     | 34      | 34 | 34 | 34  | 34  | 34 |   |    |

※後期課程(高校)の内容の一部を、前期課程(中学)に移行して履修します。(太字・下線)

※6年三文は、②のついているいずれかの科目から1科目を選択して履修します。

※6年理系数学は、◇と◆のついている科目からどちらか1つのパターンを選択して履修します。

### 3-7 担当者一覧

#### ○管理職

校長 鬼東 雅史  
教頭 村山 育志, 小侍 祐一  
事務長 大浦 慶信

#### ○地域との協働による高等学校改革推進事業（グローバル型）事務局

事務局長 上水 陽一  
事務局員 鈴木 圭介, 後藤 駿介, 上田 聖矢

#### ○グローバルフォレストピア探究・検討委員

郷土探究1（前期課程1年） 河野 翔太  
郷土探究2（前期課程2年） 藤高 祐太郎  
実践探究3（前期課程3年） 上田 聖矢  
実践探究4（後期課程4年） 猿渡 康介  
普遍探究5（後期課程5年） 増田 武矢  
普遍探究6（後期課程6年） 佐土瀬 英嗣

#### ○グローバルフォレストピア探究主任

鈴木 圭介

#### ○グローバル探究研修担当者

後藤 駿介

#### ○ICT教育推進担当者

上田 聖矢

令和2年度 地域との協働による高等学校改革推進事業・グローバル型  
実施報告書 第2年次

2021年(令和3年)3月 発行

発行者: 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校  
校長 鬼束 雅史

〒882-1203

宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町大字三ヶ所9468-30

TEL 0982(82)1255

FAX 0982(82)1266

学校 HP <http://www.miyazaki-c.ed.jp/gokase-h/>

メールアドレス [gokase-chuto-s@pref.miyazaki.lg.jp](mailto:gokase-chuto-s@pref.miyazaki.lg.jp)

